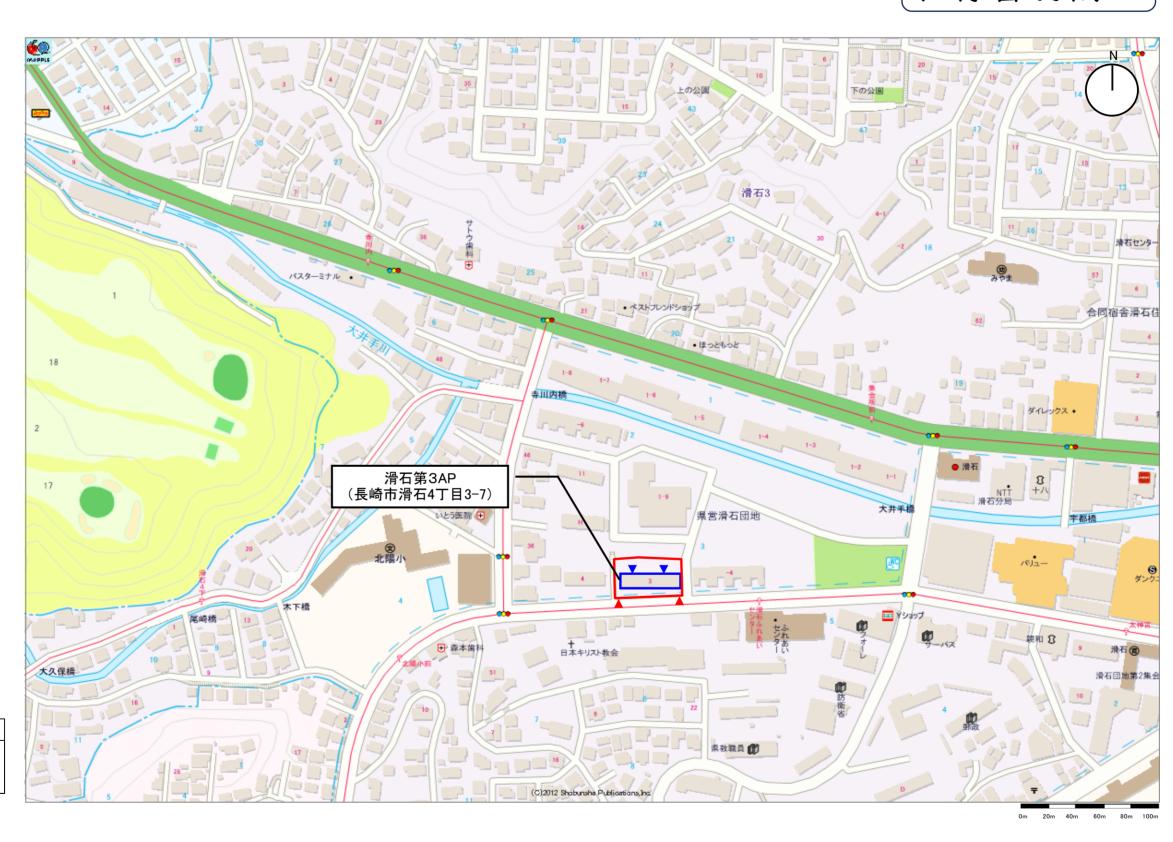
## 仕様書別紙3



凡例
▲:敷地出入口

🛕 :建物出入口

 特記事項
 建物名称
 図面名称

 014\_滑石第3AP
 位置図



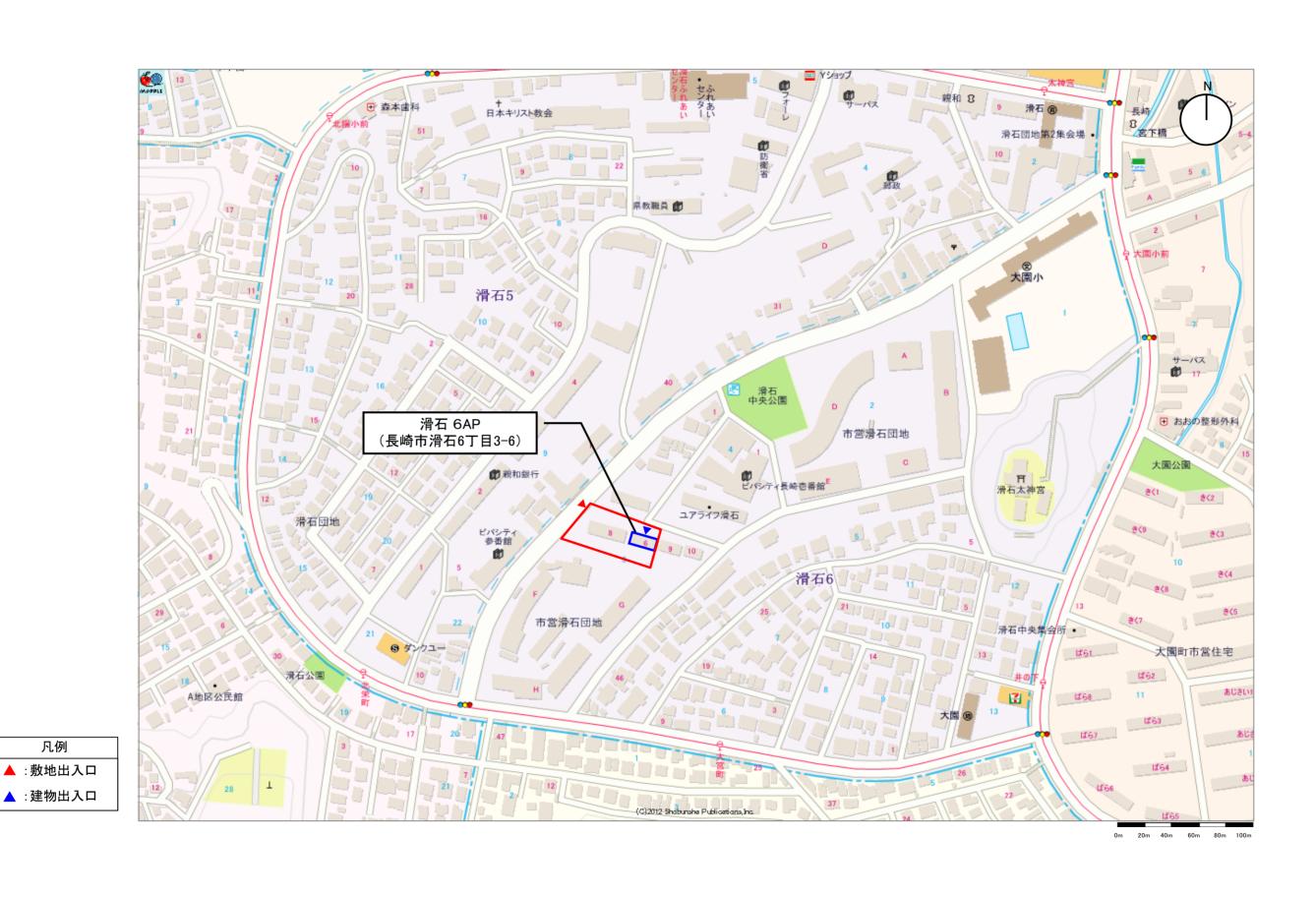
凡例

▲:敷地出入口

▲:建物出入口

 特記事項
 建物名称
 図面名称

 009\_滑石5AP
 位置図



 特記事項
 建物名称
 図面名称

 010\_滑石6AP
 位置図

## 滑石第6公舍屋上防水・外壁改修工事

図面り	ノスト	
符号	名称	縮尺
A-01	改修工事特記仕様書(その1)	_
A-02	改修工事特記仕様書(その2)	_
A-03	改修工事特記仕様書(その3)	_
A - 0 4	改修工事特記仕様書(その4)	_
A - 0 5	改修工事特記仕様書(その5)	1
A - 0 6	改修工事特記仕様書(その6)	_
A - 0 7	改修工事特記仕様書(その7)	_
A - 0 8	改修工事特記仕様書(その8)	_
A-09	改修工事特記仕様書(その9)	ı
A — 1 0	改修工事特記仕様書(その10)	_
A — 1 1	案内図・配置図	1/500
A - 1 2	1 階平面図	1/100
A — 1 3	2・3階平面図	1/100
A — 1 4	4 階平面図	1/100
A — 1 5	R階平面図	1/100
A - 1 6	北側立面図	1/100
A — 1 7	南側立面図	1/100
A – 18	東側立面図・西側立面図	1/100
A — 1 9	矩計図	1/60
A-20	階段断面詳細図・建具表	1/60 · 1/100
A - 2 1	部分詳細図	1/5·1/30
A-22	外壁補修標準図	_

		章 項 目	特 記 事 項	(象) 呼左建物との取合い	> 受注者は、工事中、取合工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原形に復する。 (1.2.1
長崎県土木部建築課 選長 総括護長補佐 ほ長補佐 係長 設計者	3. 工事科目(●印の付いたものが対象工事)	① 適用基準等	→ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
平成29年 8月 日			·構内舗装・排水設計基準(平成27年版) ①工事写真の撮り方(建築編)平成21年版 長崎県土木部建築課	一	本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると 共に、次の1)から4)を満たすものとする。
	建築工事		・工事写真の撮り方(建築設備編)平成21年版 長崎県土木部建築課 ・敷地調査共通仕様書 (平成23年版)	共     通	1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断
		共     诵	※長崎県建設工事共通仕様書(平成 29年 4 月長崎県土木部)第 1 編 共通編第 1 章 総則	事	熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極
滑石第6公舎屋上防水・外壁 改修工事設計図 <sup>平成 年 月(全 枚)</sup>	● 仮設工事 -式 -式 -式	事	ただし、上記の長崎県建設工事共通仕様書と本特記仕様書に、同じ項目が記載されている場合は、 本特記仕様書による。なお、総則本文中の「長崎県土木工事検査基準」、「長崎県土木工事検査		めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じ た材料を使用する。
仕様書	O ± I =	項	指導幹職務要綱」、「工事数量総括表」、「段階確認」、「出来形数量の算出」、及び、 1 - 1 - 4 6条第3項の項目等については適用しない。	続     き	2)接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルペンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
I 工事概要	〇 地業工事     一式     一式       〇 鉄筋工事     一式     一式		また、第1-1-32条第18項本文は『受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により以下		3)接着材は可塑剤(フタル酸ジーnーブチル及びフタル酸ジー2ーエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く。)が添加されていない材料等を使用する。
	〇 コンクリート工事     一式     一式		の各号から実施する内容を選択し、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。』と読み替えて運用する。		4) 1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアル
1. 工事場所 長崎市滑石 6 丁目	○ 鉄骨工事     一式     一式       ○ 2)がト・トン゚ロック・ト、ロcバネル・押出成型セント板工事     一式     一式		また、第1編 共通編第1章 総則以外を適用する場合は特記による。		デヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を 使用したものとする。
2. 敷地面積	○ 2/95-1/3°09/3°4LEn(44-拼出成型47/4板工事)     一式     一式     一式       ● 防水工事     一式     一式     一式	2 設備工事との取合し	ウ 受注者は、設備機器の設置、取合い等が検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。 (I.I.)		また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次の通りとする。 規制対象外
3. 工事種目 改修工事	〇 石工事 一式 一式 一式	E WW T T C O W II V	AVERAGE OF STREET WILL AND AN ORDING STREET		①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアル
	○ タイル工事         一式         一式         一式           ○ 木工事         一式         一式         一式	③ 施工計画書	総合施工計画書 (1.2.1	2)	②建築基準法施行令第20条の7第4項より国土交通大臣の認定を受けた材料
	● 屋根及びとい工事 一式 一式 一式		受注者は、請負代金が500万円以上の場合には、工事の着手に先立ち、以下の内容を含む総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。 ただし、請負金額が500万円未満であっても		第三種品 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
	○金属工事     一式     一式       ● 左官工事     一式     一式		監督職員の指示があった場合は提出する。 また、内容を変更する必要が生じた場合、監督職員に報告するとともに、施工等に支障がないよう適切な措置を講ずるものとする。		②建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	○ 建具工事     一式     一式       一式     一式		(1) 工事概要		アスペスト含有材料
4. 工事内容 ・屋上防水改修	〇 カーテンウォールエ事 一式 一式 一式		(2) 実施工程表 (3) 現場組織表		本工事に使用する材料については、アスベストを含有しないものとする。
・外壁改修	● 塗装工事     一式     一式       O 内装工事     一式     一式		(4) 施工体系図 (5) 主要工種	① 材料の品質等	同等以上の材料・機材等の使用 (1.4
	○ 内装工事     一式     二式       ○ ユニット及びその他の工事     一式     一式		(6) 品質計画 (品質目標、品質管理方針、重要管理項目、工種別施工計画書作成要領、	19 物件が加具等	本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能と同等以上のもを使用する。
・塗装改修	O 排水工事		(7) 養生計画 検査立会項目等) (8) 緊急時の体制及び対応		ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督 職員の承諾を受ける。
・手摺取替	○ 舗装工事     一式     一式       ○ 植栽工事及び屋上緑化工事     一式     一式		(9) 安全対策 (10) 環境対策		材料・機材等の品質及び性能
	○ その他     一式     一式		(11) 仮設計画		本工事に於いて、JIS及びJASマークの表示のない材料を使用する場合の材料及び機材
	O -式 -式 -式		(12) 現場の就業時間 (13) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法		等の製造業者等は、次の(1)から(6)のすべての事項を満たすものとし、この証明となる資料 又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承
	一式   一式   一式		(14) 産業廃棄物処理フロー図 (15) 総合評価に関する事項(誓約項目、技術提案または施工計画)※総合評価落札方式実施時のみ		誰を受ける。 (1) 品質及び性能に関する試験データを整備していること
	電気設備工事		(15) 総合評価に関する事項(監約項目、技術授業または施工計画) 次総合評価落札力式美施時のか (16) その他		(2) 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること
	建物別及び屋外 工 事 種 別 工 事 科 目 設 備 概 要		工種別施工計画書		(3)安定的な供給が可能であること (4)法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
	〇電 灯 設 備 一式 一式 一式		受注者は、各種工事の施工前に先立ち、以下の内容を含む工種別施工計画書を作成し、監督 職員に提出する。 ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は省略できる。		(5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6)販売、保守等の営業体制が整えていること
Ⅱ 工事仕様	○動力設備         一式         一式         一式         一式         ○式         ★ VA ○1 φ kVA ○1 φ kVA         ★ VA ○1 φ kVA <t< td=""><td></td><td>(1) 工種別工程表</td><td></td><td>(O) MAC WITHOUT EACH SEE</td></t<>		(1) 工種別工程表		(O) MAC WITHOUT EACH SEE
1. 特記事項	○受変電設備         一式         一式         一式         ○式         kVA         O1φ         kVA           ○電力貯蔵設備         一式         一式         一式         一式         Ah         tb		(2) 管理組織図 (3) 主要資材	① 施工条件	● 現場説明書による (第1.3.5 (3.5 (3.5 (3.5 (3.5 (3.5 (3.5 (3.5
(1)項目は、番号に〇印の付いたものを適用する。	〇 自 家 発 電 設 備 一式 一式 大		(4) 施工管理計画(品質管理、出来形管理) (5) 施工方法		(優1.3.3
(2)特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。	○雷保護設備     一式     一式     一式     ○旧JIS     ○新JIS       ○構内情報通信網設備     一式     一式     一式			12 化学物質の濃度測	施工完了時に指定した室の測定対象化学物質の室内濃度を測定し、監督職員に報告すること。 (1.5.
○印と啓印の付いた場合は、共に適用する。 (3)特記事項に記載の【 】内表示番号は、建築改修工事標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示し、	〇電 話 設 備 一式 一式 一式		・施工計画書で工法を定める場合の風圧力の計算 標準風速 (Vo) 3.4 m/s	定	測定は、パッシブ型採取機器により行う。 測定対象化学物質
( )内表示番号は建築工事標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。	〇構内交換設備         一式         一式 外線回線 内線回線           〇拡声設備         一式         一式         一式 地幅器 W 回線		地表面粗度区分 · I · II ・II ・IV ・上記風圧力の1.3倍の風圧力に対する安全性を確保する。		· 学校施設
(4)特記事項に記載の(参) は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)巻末の各部配筋参考図 の当該項目を示す。	○ 拡 声 設 備 一式 一式 一式 増幅器 W         回線           ○ 音 響 ○ 映 像 設 備 一式 一式 一式 一式		・上記風圧力の1.15倍の風圧力に対する安全性を確保する。 適用工種 ・ALCパネル(外壁・屋根) ・押出成型が小板(外壁) ・外壁石張(乾式)		ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、 スチレン
(5)製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また( )内は製品名を示す。 (6)[国印は長崎県の「環境物品等調達方針」の特定調達品目を示す。	〇出退〇情報表示設備 一丈 一式 一式		・長尺金属板葺 ・折板葺 ・アルミ笠木 ・ガラスブロック		<ul><li>学校以外の施設</li><li>ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン</li></ul>
	○電気時計設備     一式 一式 一式       ○誘導支援設備     一式 一式 一式		・シート防水(機械式) ・屋上緑化システム		測定場所(※図示 ・ )
2. 工事種目 及び 共通仕様 (1) 下記工事種目全てを工事範囲とする。なお、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、下記の各共通仕様による。	〇テレビ共同受信設備 一式 一式 一式	④ 工事報告	エ事月報 ※ 作成する ・ 作成しない (1.2.4		測定箇所数( )箇所
(1) 「配工争種日主しを工事制度とする。体の、関盟及び特配は様に配載されていない争項は、「配別合共通は様による。	〇 自 動 火 災 報 知 設 稀 一式 一式 一式 OP型 OR型 回線		受注者は、当月の工事の全般的な経過を記載した工事報告書を作成し、監督職員に提出する。	③ 技能士	※適用する。 (1.5.
工事種目 共通仕様	○中央監視制御授備         一式         □式		履行報告書 ・ 作成する ※ 作成しない 中間前金払を選択した場合は、履行状況を所定の様式に基づき作成し、認定請求時に実施工程		適用工事種別 技能検定作業 仮設工事 ・とび作業
公共建築改修工事標準仕核書(建築工事編)(平成 28年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修	○ 監 視 カ メ ラ 設 備		表、出来高数量、完成部分の状況写真を含めて発注者に提出する。		鉄筋工事 - 鉄筋組立作業
○ 建築工事 公共建築工事標準性様書(建築工事編)(平成 28年版) 国土交通省大臣官房官庁営籍部監修	○ 駐車場管制設備       ○構内配電線路     -式       -式     -式	5 電気保安技術者	・要 ※不要 (1.3.4	1)	コンクリート工事 型枠工事作業 コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事 構造物鉄工事作業 とび作業
公共建築工事標準世禄書(電気設備工事編)(平成 28年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修	○ 標 内 通 信 線 路         一式         一式         一式	6 工事関係者連絡	※組織する (1.3.	n	コンクリートプロック・ALCn' ネル ・コンクリートブロック工事作業 ・押出成形セメント板工事 ・ALCパネル工事作業
· 電気設備工事 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成28年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修		会議	受注者は、工事現場が隣接し、又は同一場所において別途工事がある場合には、受注業者間 の安全施工に関する緊密な情報交換を行うとともに、非常時における臨機の措置を定める等の		防水工事・アスファルト防水工事作業
公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(平成28年版) 国土交通名大臣官房官庁営繕部監修  A + 油等 本 + 本 年 本 4 年 全 (			連絡調整を行うため、工事関係者連絡会議を組織する。		・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業
公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(平成 28年版) 国土交通省大臣官房官庁営結部監修 - 機械設備工事 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(平成28年版)国土交通省大臣官房官庁営結部監修	機械設備工事	(A) (A) (1) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A	\$\tag{\text{2}}		・ 合成ゴム系シート防水工事作業  ○塩化ビニル系シート防水工事作業
公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)(平成28年版) 国土交通名大臣官房官庁営繕部監修		⑦ 発生材の処理等	・発注者に引渡しを要するもの(・金属類 ・PCB含有物 ) (1.3.1) 引渡し場所 ※構内		・シーリング防水工事作業
	O 空気調和設備		特定建設資材の分別解体等及び再資源化等 ・本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に、特定建設資材を使		・ 改質アスファルトシートトーチエ法防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業
- 昇降機設備工事 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(平成 28年版) 国土交通名大臣官房官庁宮繕部監修	○ 換気設備     一式     一式       ○ 排煙設備     一式     一式		用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」		- FRP防水工事作業 石工事 ・石張り作業
(2) 木造の場合は、公共建築木造工事標準仕様書(国土交通大臣官房官庁営器部監修 平成28年度版)を適用する。	O 排煙設備         -式         -式         -式           O 自動制御設備         -式         -式         -式		(平成12年5月31日法第104号。以下、「建設リサイクル法」という。)施工令又は長崎県が 条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき		タイル工事 ・タイル張り作業 木工事 ・大工工事作業
	〇 衛生器具設備 一式 一式 一式		分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な処置を講ずる。 エ事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督		屋根及びとい工事・内外装板金作業
	○ 給水設備     一式     一式       ○ 排水設備     式     一式		職員と協議するものとする。		金属工事 網製下地工事作業 内外装板金作業 左官工事 左官作業
	O 給湯設備		工程ごとの作業内容		速具工事
	○ 消火設備     一式     一式       ○ 厨房機器設備     一式     一式		工     工     程     作業内容       1. 造成等     造成等の工事     有無		カーテンウォールエ事・金属製カーテンウォールエ事作業
	O 間房機器故職     一式     一式       O ガス設備     一式     一式		2 基礎・基礎ぐい 基礎・基礎ぐいの工事 ・有 ・無 3 上部構造部分・外装 上部構造部分・外装の工事 ・有 ・無		塗装工事   ・建築塗装作業   ・プラスチック系床仕上工事作業 ・畳製作作業
	〇 浄化槽設備 一式		作 4. 屋根 屋根の工事 有 無		・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業
			5 - 建築設備・内装等   建築設備・内装等の工事   有   無   を の他の工事   有   無		接水工事 · 建築配管作業 · 遗图工事作業
	界降機設備工事		受注者は、工事に先立ち、入札後、契約書作成までに次の内容を決定し、下記の事項を記載		機械股備工事 - 建築配管作業
	建物別 工 事 種 別		した書面により発注者(監督職員)へ提出すること。 1. 分別解体等の方法		・保温保治工事作業 ・ダクト板金作業
	工事科目		2. 解体工事に要する費用(受注者の見積金額)		· 冷凍空気調和機器施工作業
	〇 一般エレベーター 一式 一式 一式		<ol> <li>特定建設資材廃棄物の再資源化等をするための施設の名称及び所在地</li> <li>特定建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用(受注者の見積金額)</li> </ol>	14 40 51	w m =
	〇 一般油圧エレベーター     一式     一式       〇 普及型エレベーター     一式     一式		受注者は、当該建設工事に係わる特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、再資	14 設計GL	※図示
	○ 非常用エレベーター 一式 一式 一式		源化報告書を所定の様式に基づき作成し、監督職員に提出する。	(角 特別が世界の下注	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	〇 機械室レスエレベーター 一式 一式 一式 一式 一式		・本工事は、建設リサイクル法等の対象工事外であるが分別解体等及び特定建設資材の再資源化 等について適切な措置を行う。	1月別は竹科の工法	190千年19日 1915年1日 191
	○ 小荷物専用エレングラー     一式     一式       ○ エスカレグラー     一式     一式				│ 石第 6 公舎屋上防水・外壁改修工事
	一式 一式 一式				EX ST ISI
I					修工事特記仕様書(その1)   平成29年版   ^^ 0'

○ 1事写真	下記工事写真を監督職員に提出する。       区 分 分 類 規格 (サイズ)     部 数 備考       ※者工前     ※3節					
	※ カラー   ※ サービス版程度   ・1部   ・1和   ・1和					
	※完成時 ※3部 外報4面のみ 1部 2部増	「長崎県建設工事共通仕様書」から抜粋 特記仕様書の適用基準等では、長崎県建設工事共通仕様書(平成29年4月長崎県土木部)	) 第1編 共通編第1音 総則を適田することと!! て!	ハキオが、この什様東の中でも		
	詳細については「工事写真の撮り方」(長崎県土木部建築課)による。 エ事写真の綴じ方は、「工事写真の綴じ方」(長崎県土木部建築課)による。	特に注意していただきたい事項について抜粋して掲載しています。(以下に記載している項この抜粋は、特記事項とは異なるため、本工事に該当する項目は適用することになります	項目だけが適用されているものではないので注意してく			
43 ***		1-1-7			1 - 1 -51	
17 完成写真	下記完成字真を監督職員に提出する。ただし、原版は撮影業者の保をとする。	工事実績情報の登録  受注者は、受注時または変更時において工事請負金額が500万円以上の工事につい 請情報サービス(コリンズ)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報 注時は契約後、土曜日、日曜日、松日等を除き10日以内に、変更時は変更があった 土曜日、日曜日、松日等を除き10日以内に、完成時は工事完成後、土曜日、日曜日 き10日以内に、訂正時は適宜登録機関(登録をしなければならない。 なお、変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請 の変更の場合は原則として登録を必要としない。 また、登録機関発行の「登録内容確認第(工事実績)が受注者に届いた際には、 やかに発注者に提示し、「完成時」は提出しなければならない。 なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略でき	間について、受 日から土曜日、 引、祝日等を除 書負代金額のみ その写しを連	1. 受注者は、建設工事に伴う騒音振動対策技術指針(建設大臣官房技術参事官選達、昭和62年 3月30日改正)、関連法令並びに仕様書の規定を尊守の上、騒音、振動、大気汚染、水質汚満 等の問題については、施工計画及び工事の実施の各段階において十分に検討し、周辺地域の環 境保全に努めなければならない。 6. 受注者は、工事の施工にあたり下記表に示す建設機械を使用する場合は、表1-3の下欄に 示す「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(平成17年法律第51条)に基づく技術 基準に適合する特定特殊自動車。または、「排出ガス対策型建設機械指定要領」(平成3年10月 8日付け建設省経費条第249号)、「輸出ガス対策型建設機械を予度促進に関する規定」(平成 18年3月17日付け国土交通省告示第348号)もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械「定要偏」 (平成18年3月17日付け国施售第215号)に基づき指定された排出ガス対策型建設機械(以下「 排出ガス対策型建設機械等)という。)を使用しなければならない。 排出ガス対策型建設機械等を使用できないことを監督職員が認めた場合は、平成7年度建設	- 1 - 1 - 53 暴力で等による不当 要求の排除対策	受注者は、当該工事の修工にあたって長崎県建設工事暴力団対策要綱(平成22年4月1日一部改正)に基づき、次に掲げる事項を遵守しなければならない。 なお、違反したことが判明した場合は、指名除外等の措置を行うなど、版正に対処するものとする。  1. 不当要求を受けた場合(下請け業者が受けた場合も含む)は、毅然として拒否し、所轄の警察署に届出を行い、捜査上必要な協力を行うとともに、その旨を速やかに監督職員に通知通知すること。  2. 不需要求による被害または工事妨害を受けた場合(下請業者が受けた場合も含む)は、所轄の警察署に被害届を提出するとともに、その旨を速やかに監督職員に通知すること。  3. 上記1、2の排除対策を講じたにもかかわらず、上記2の要認により工期に遅れが生じるおそれががある場合には、速やかに監督職員と工程に関する協議を行うこと。
18 完成図	<ul> <li>※提出する</li> <li>完成図の種類</li> <li>※表1.7.2による他、矩形図、植栽図、構造図及び面積表・( )</li> <li>完成図の原図サイズ及び仕様</li> </ul>	工事の下請負  受注者は、下請負に付する場合は、以下に掲げる要件をすべて満たさなけらばな (1) 受注者が、工事の施工につき総合的に企圖、指導及び調整するものである (2) 下請負者が長崎県の入札参加資格者である場合には、営業停止、指名停止 こと。 (3) 下請負者は、当該下請工事の施工能力を有すること。 なお、下請契約を には、適正な顧の請負代金での下請契約の締結に努めなければならない。 (4) 下請負者が当該企業体の構成員でないこと。	ちこと。 上期間中でない 結結するとき	技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することができるが、これにより難い場合は、整智職員と協議するものとする。  表 1-3	資材等の県内優先調達	1. 受注者は、工事に使用する資材等については、地場産業の活性化を図るため、原則として県 内生産品を使用しなければならない。 ただし、WT O 対策工事については、県内生産品を使用するよう努めるものとする。 2. 受注者は、請負金額が 500万円以上になる場合、本工事に使用した資材(アスファルト合材・ ・生コンクリート・持石類・コンクリートニ炭製品は、配数の須の資材とする。それ以外は、 記載任意の資材とする。)を工事完成までに、書面(様式 - 2)(周内業者、県内産建設資材 の活用用):建設資材使用報告書)及び電子ファイルによって監督職員に提出すること。 3. 受法者は、請負金額が 500万円以上になる工事において、県内生産品以外を使用する場合。
① 施工図	・原図 部数 1部 A ( ) 版2つ折り製本 部数 ( ) 部 ※CADデータ 形態 C D ー R ファイル形式 D X F 形式及びオリジナル形式 部数 1部 ※ 提出する 提出部数 ※ 2 部 (内 1 部は受注者控え) ・ ( ) 部 (1.7.1.2)	1 - 1 - 13 下請契約書及び下請 代金内訳書 (1) 受注者は、建設業を営む者と下請契約を締結する場合、下請契約に係る契 負代金の額が記載されたものに個別工事下請契約的款または工事下請基本 して締結 なければならない。 また、受注者は、下請契約を締結した場 請に係る契約者の写しに下請代金内訳書(提出書類様式集の記載例の内容 の)の写しを活付したものを下請契約締結後、速やかに整督職員へ提出す 変更が生じた場合も同様とする。 ただし、工期のみの変更明省合はこの (2) 受注者は、下請工事の受注者・当該下請工事の一部に係る二次以降の下請 へ上記と同様の義務を負う旨を定めるとともに、該当する全ての下請工事	S 契約書を添付 合は、当該下 を満足したも であものとし、 限りではない。  負人を含む)	- プルドーザ - 発動発電機(可搬式) - 空気圧縮機(可搬式) - 油圧ユニット - 以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの - 油圧ハンマ - バイブロハンマ - 油圧式鋼管圧入・引抜機 - アースオーガ - オールケーシング銀削機 - リパースサーキュレーションドリル - アースドリル 検査証の交付を受け		その理由を付した書面(様式・3(県内業者、県内産施設資材の活用用): 長崎県内産資材を 使用しない理由書)及び説明資料を事前に整督職員に提出し、その理由について承諾を得なければならない。 ただし、WTO対象工事については、提出のみとし、承諾は不要とする。 4. 受法者は、工事に使用する資材等については、長崎県内に本店を有する者の中から調達するよう努めなければならない。 県内生産品とは ①長崎県内の工場にて製造・加工された資材・製品であること。 「材料が県外製品であっても、県内の工場で製造・加工したもの(二次製品)であれば、県内生産品として取り扱う」
	工事完成後は監督職員の指示する施工図を提出する。なお、本工事に係る施工図等の著作者の 権利は、当該建物における使用に限り発注者に移譲するものとする。	上記の資料を集約のうえ、監督職員に提出する。		・地下連続壁施工機 ・全回転型オールケーシング銀削機 ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン		②長崎県建設工事共通仕様書、公共建築工事標率仕様書(建築工事編、電気設備工事編、機械設備工事編)その他間連する仕様書等の基準を満たす資材・製品であること。
20 施工計画書 (完成図書)	※ 提出する 提出部数 ※ 2 部(内 1 部は受注者控え) ・ ( ) 部 (1.7.1) 工事完成後は監督職員の指示する施工計画書を提出する。なお、本工事に係る施工計画書等の (1.2.2) 著作者の権利は、当該建物における使用に限り発注者に移譲するものとする。	施工体制台帳及び施 工体系図 工体系図 また、受注者は、再本を施工するために、下請負契約を締結した場合は、施工体制台 また、受注者は、再下請が生じた場合には、再下請負担適量か着を作成し、監督職 ければならない。 なお、施工体制台帳には、次の(1)~(4)を配載するこ (1)建設業法第24条の7第1項及び建設業法施工規則第14条の2に掲げる	は員に提出しな こと。 事項	・オフロード法の基準適合表示が付されているもの又は特定特殊自動車確認証の交付を受けて いるもの ・排出ガス対策型建設機械として指定を受けたもの	1 - 1 - 54 下請人の県内優先活 用	所」を有するもの、またはそれに準ずるものの中から選定しなければならない。また、当該下 下請負工事の受注者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。)が同様の義務 を負う旨を定めなければならない。 ただし、WTO対象工事については、「県内に主たる営
21 保全に関する資料	※ 提出する 提出部数 ※2 部 ・ ( ) 部 1.7.3(a)の他、下起について必要専項を記入の上監督職員に提出する。 提出は、所定の様式及び電子ファイルとする。 管理者のための建築保全の手引き(改訂版) (建設大臣官房官庁営籍部監修)	(2)安全衛生責任者名、安全衛生推進者名、雇用管理責任者名 (3)監理技術者、主任技術者(下請負を含む)及び元請負の専門技術者(専任のみ)の額写真 (4)一次下請けとなる警備会社の商号または名称、現場責任者名、工期 2.受注者は、下請負契約を締結した場合は、各下請負者の施工の分担限係を表示 間提出用」を作成し、監督無に提出しなければならない。また、受注者は「提示用」を作成し、公共工事の入礼及び契約の適正化の促進に関する法律に従	間の変更 Fした施工体系 は、施工体系図	投注者は、設計図書に施工時間が定められている場合でもその時間を変更する必要がある場合は、あらかじめ監督職員の承接を得なければならない。     受注者は、設計図書に施工時間が定められていない場合で、官公庁の休日または夜間に、現道上の工事または監督職員が把握していない作業を行う場合は、事前に理由を付して監督職員に報告しなければならない。		業所」を有するもの、またはそれに率するもの中から選定するよう努めるものとする。  2. 受注者は、請負金艦が500万円以上になる場合、本工事に使用した下請負人を工事完成まで に、書面(様式-1(県内業者、県内産建設資材の活用用):下請企業使用報告書)及び電子 ファイルによって監督職員に提出すること。  3. 受注者は、請負金艦が500万円以上になる工事において、長崎県外の下請負人を使用する場合、その理由を付した書面(様式-4(県内業者、県内産建設資材の活用用):長崎県内下請企業 を使用しない理由書)及び説明資料を半前に監督職員に提出し、その理由について承諾を得な
22 瑕疵点検	瑕疵点検の時期 竣工後 ※1年 ※2年 瑕疵点検を行うときは、事前に内容、方法、立会等について監督職員に確認を受ける。	係者がが見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 3. 受注者は、発注者から、工事の陰工の技術と程理をつかさどる 短頭技術者 術者)の設置状況その他の工事現場の施工体制が施工術台帳の記載に合致して の点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。	こいるかどうか 事故の補償	投注者は、雇用保険法、労働者災害補債保険法、健康保険法及び厚生年金保険法の規定により、雇用者等の雇用影響に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなけらばならない。		ければならない。ただし、WTの対象工事については、提出のみとし、承諾は不要とする。 なお、当該工事の身注機関が離島の地方機関の場合は、「長崎県外の下請負人」を「発注機 関管外の下請負人」と読み替えるものとする。
23 工事監理連絡会	受注者は、契約後1ヶ月以内に設計図書の照査を行い、質問や提案事項等を整理し、監督職 員が確認できる資料および質問書を書面により提出すると同時に、工事監理連絡会の開催を要 請する。	4. 受注者は、施工体制台帳及び再下納負通知書並びに施工体系図に変更が生じた 都度速やかに監督職員に提出並びに掲示物の変更をしなければならない。 1 - 1 - 16 調査・試験に対する 扱力 なければならない。この場合、発注者は、具体的な内容等を事前に受注者に報告す	けして、協力し	5. 受法者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。 6. 受法者は、建資業退職金共済制度に該当する場合は同制度に加入し、その掛金収納書(発注者用)を工事の著字前(工期始期日から30日以内)に、発注者に提出しなければならない。 また、公共工事の入札及び契約の適正化を図るための指置に関する指針に従って、建設業退職会共済制度適用事業主工事現場衛援を、工事規模の工事関係者が見やすい場所及び公衆の見	1 - 1 - 56 ダンプトラック等に よる過積載等の防止	ダンプトラック等による過報載等の防止について 1. 工事用資機材等の機能超過のないようにすること。 2. 過機能を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。 3. 資材等の過機載を防止するため、資材の購入等にあたっては資材納入業者の利益を不当に書することのないようにすること。
② 産業廃棄物の一時 保管	現場内における産業廃棄物の一時保管をする際は下記の掲示を行い適切に管理すること。 ※掲示板の大きさ 縦60cm以上×横60cm以上 (例)  産業廃棄物保管場所 廃棄物の程類 ○○○○ 最大積み上げ高さ ・注意事項 ※ ○	1 - 1 - 22 建設副産物 1. 受注者は、建設副産物対策と建設工事公衆災害防止対策要綱(長崎県土木部) 接談副産物の適正な処理及び再生衰弱の活用を図らなければならない。 3. 受注者は、産業廃棄物が撤出される工事にあたっては、産業廃棄物管理票(紙 または電子マニフェスト)により、適正に処理されていることを確かめるととも 管し、監督職員から請求があった場合はこれを提示しなければならない。 改業廃棄物管理票(マニフェスト) 設括表を作成し、監督職員に提出しなければ 4. 受注者は、建設資材の利用及び建設副産物発生・搬出の有無に関わらず工事請 万円以上の場合には、再生資源利用計画書及び再生資源利促設計画書を所定の 作成し、拡工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。	を専種守して、 1 - 1 - 50 現場技術者等の腕章 ボマニフェスト らに、整備、保 S、受注者は、 なならない。 負負代金が500	やすい場所に掲げなければならない。  1. 受注者が配置する現場代理人、整理技術者、主任技術者等の現場技術者は、前の見やすい箇所に開棄を着用するものとする。 (例1) 現場代理人の場合  現 場 代 理 人  3 cn程度 9 cn程度		4. さし体の装着又は物品載荷装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に出入りすることのないようにすること。 5. 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(以下、「法」という。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。 6. 下請契約の相手方又は資材納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮の欠けけるものまたは業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。 7. 運送契約による場合は、事業用車両(縁ナンパー)を使用すること。 8. 長無明カナンバー車両の優先使用に努めること。 9. 以上のことにつき、下請け契約における受注者を指導すること。
25 解体工事等におけ る石総障書予防措 置について	受注者は、解体工事等を行う現場において、石綿等の使用の有無を事前に調査した結果等を、 作業員及び公衆の見やすい場所に掲示しなければならない。 石綿等が使用されている保温材、耐火被運材等の除去を行う際は、作業場所を隔離すること。 石綿等の除去を行う際は、作業場所を隔離するとともに、隔離作業場所の排気にろ過業じん 方式の策じん・排気装置を使用すること。 また、隔離作業場所を出入口に前室を設置すること。 隔離の解除にあたり、事前に隔離作業場所内における石綿等の附しんを処理すること。 受注者は、石綿等の除去を行う作業員に、電動ファン付き呼吸用保護具またはこれと同等以上 の性能を有する呼吸用保護具を使用させなければならない。	5. 受注者は、再生资源利用計画書及び再生資源使用促進計画書を作成した場合、源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成しない場合であっても、最終請 万円以上の工事については、工事完了後、速やかに再生資源利用実施書及改算 進実施書を電子ファイル(建設リサイクルデータ競合システム(GREDAS) れたもの)ととも「監督職員に提出しなければならない。 6. 受注者(排出事業者)は、次のことに留意し、建設廃棄物の適正な処理に努めない。 (1) 建設廃棄物を搬出する際は、事前に建設廃棄物処理委託契約を結ばなけれ  1 - 1 - 31 使用人等の管理 1. 受注者は、使用人等(下請負者またはその代理人若しくはその使用人その他こ	背負金額が500 資選利用促進 により作成さ うなければなら いばならない。	(例2) 監理技術者、主任技術者の場合	1 - 1 - 57 交通誘導整備員	受注者は、交通誘導管備員を配置する場合は、交通誘導警備検定合格者(1 級又は2 級)を配置することとする。ただし、交通誘導警備検定合格者を配置できない場合、監督職員外等備員名 第及び教育実施状況等に関する資料等により、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する管備員等と承諾を得た者については、この限りではない。 資格 資格 要件 1・2級交通誘導警備 交通誘導警備に関して、公安委員会が学科及び実技試験を行って 被定合格者 専門的な知識・技能を有すると認めた者。 を選携等に関して、公安委員会が学科及び実技試験を行って 場所的な知識・技能を有すると認めた者。 ・受備業法における指定調音を終了した者 な知識及び技能を有す ・受備業法における指定調音を終了した者
26 舗装版切断作業時	受注者は、舗装切断時に発生する排水については、水質汚濁の防止を図る観点から、その排水 を回収し、産業廃棄物(汚泥)として処理しなければならない。ただし、現場条件等により、これ により難い場合は、産業廃棄物担当断局と協議のうえ遺正に処理しなければならない。 受注者は、舗装切断時に排水が生じない工法(空冷式等)と採用した場合は、吸引する装置の 併用など、粉塵の飛散防止対策を実施するとともに、収集した粉塵は上記と同様、適正に運搬 処理を実施しなければならない。 なお、上記記載の発生する排水及び収集した粉塵の処理は、「発生材の処理等」による。	を含む。)の雇用条件、賃金の支払い状況、宿舎環境等を十分に把握し、適正な 保しなければならない。  1 - 1 - 35 事故報告  受注者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に報告する 報労働基準監督署及び所轄登察署などのほか関係機関、直ちに連絡し、適正に処理 らない。 また、所定の様式(事故等発生遊報、事故等発生報告書、事故報告書( 以上の場合))を監督職員が指示する期日までに、提出しなければならない。	らとともに、所 Eしなければな	※ ①会社名・会社マーク等の記載も可。 ②既に使用の腕章で類似品も可。 ② 既に使用の腕章で類似品も可。  2. 請負代金が500万円以上の工事の場合には、受注者が配置する監理技術者、主任技術者(下請の主任技術者を含む)、専任義務のある元請の専門技術者は、身分を証明できる資料(技術者証や免許証等)を携行しなければならない。		る警備責等 - 項第二号の警備業務)を現に受けている者で、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上である者。
② 建設工事中の火災 保険ついて	工事請負契約約款第53条により火災保険に付さなければならない工事目的物、工事材料及 び婚親と終期は次のとおりとする。 ただし、解体工事、植栽工事、外構工事等火災の恐れの ない工事はこの限りではない。 また、契約時に保険証券の写しを2部契約担当者に提出する こと。					
	保険対象物 保険対象金額 始期 検期 接頭 接頭					
						5第6公舎屋上防水・外壁改修工事 <sup>エ 事</sup> <sub>設計図</sub>

A-02

平成 2 9 年版

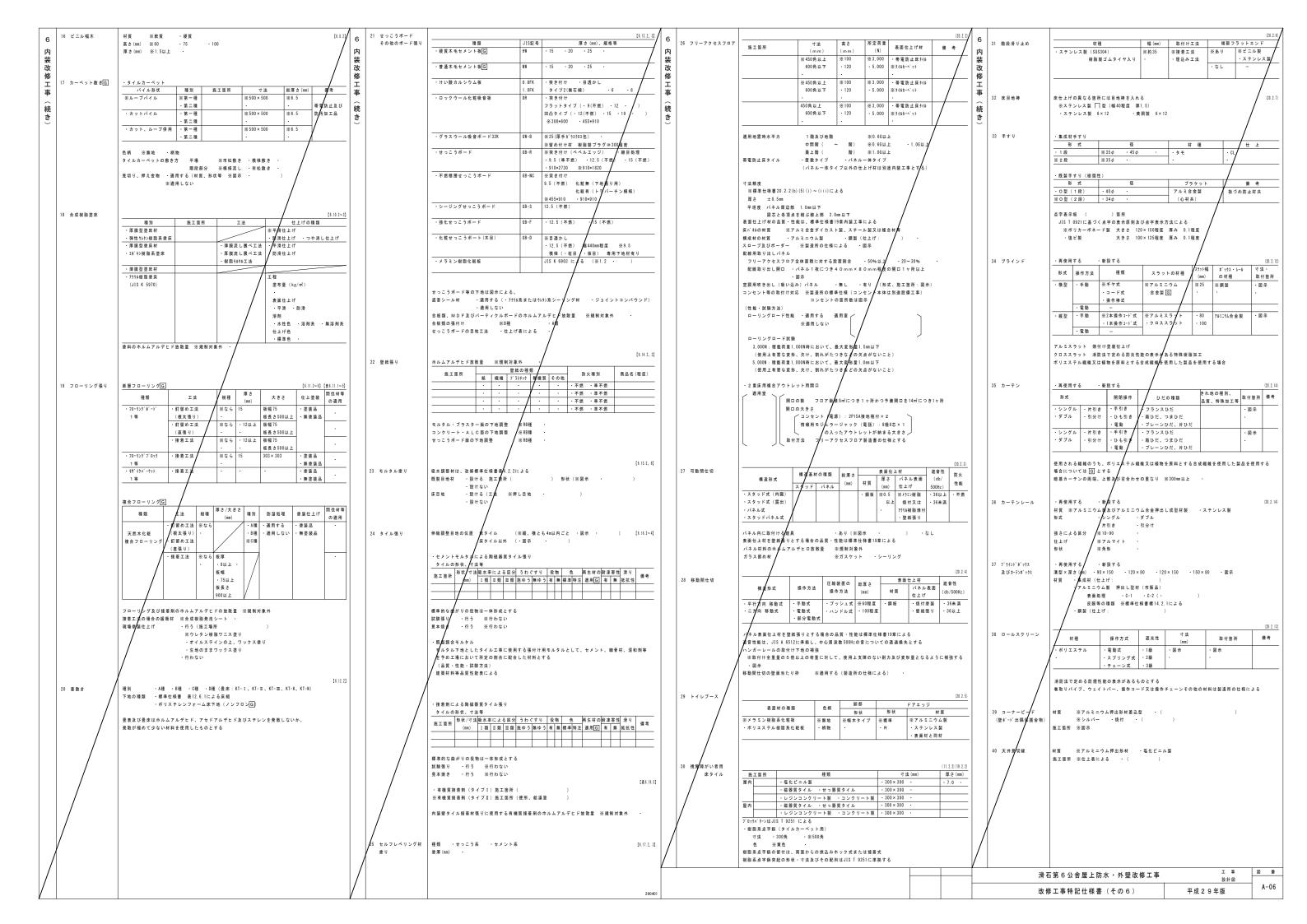
改修工事特記仕様書(その2)

290401 Ver1.0

(2) ① 足場その他	内部足場 ※脚立、足場板等 ・ ( ) [2.2.1] [表2.2.1]	(3)	屋根露出防水	3) 7 合成高分子系	屋内防水	- (4) ① 施工数量調査	調査範囲 ※外壁改修範囲 ・図示の範囲 [1.5.2]
仮設	外部足場         放置する         ・設置しない         [2.2.1]           種別         外部足場等	•	防水層の種別 高日射 上、「ない」第二 仕上塗料 反射率	ルーフィングシー 防水 (続き)	ト 正法 種別 保護層 集新 は 1 日本 1	-   外	調査内容 いび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の季動の有無、漏水の有無及び 錆汁の流出の有無を調査する。
工	※ A種 施工箇所面に や組み足場を設ける ・ B種 施工箇所面にくさび式緊結式足場を設ける	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	工法 種別 節熱材G 施力 備考 防水の 種類 使用量 通用G	改	※改修標準仕様書6.15.6   ※改修標準仕様書6.15.6   ※次修標準仕様書6.15.6   ※次修標準仕様書6.15.6   ※次修標準仕様書6.15.6   ※次m以下・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-   室   改	モルタル差仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の 形状、寸法等を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
7	・C種 施工箇所面に単管本足場を設ける ・D種 仮設ゴンドラを使用する	工工	- C-1 - X G-2 - X 製造所の X 製造所の - 有	工	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ	.   工   工   工	塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
	・ E種 移動式足場を使用する ・ 防護シートを設置する。	・	· C-3 · C-4 指定による 指定による · 無	デ   ( )	ルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による	7	調査報告書の部数 ※2部・
	・防音シートを設置する。 材料・搬去材等の運搬方法	き )	- M 3 D · D-1   - P 0 D   ※D-2	き   う	総縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート 固定金具の材質及び寸法形状	2 可とう性 エポキシ樹脂	(品質・性能・試験方法) (一財)公共建築協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品
	・A種 ◯B種 ・C種 ・D種 ・E種		- D-3 指定による 指定による - 無 ・設けない 改修用 ' ひ 、		※厚さ0.4mm以上で防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に 樹脂を租房加工した鋼板 脱気装置の種類及び設置数量 ※ルーフィングシート製造所の指定による	3 パテ状 エポキシ樹脂	(品質・性能・試験方法) (一財)公共建築協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品
② 既存部分の養生	既存部分の養生		・D-4     ・放けない       ・POD1 ・DI-1     (材質)       ・ POD1 ・DI-1     (材質)			エボキシ樹脂 4 エポキシ樹脂	(一財) 公共建東出安の建東州界・政策保付等面具注意の計画面 (品質・性能・試験方法) [4.2.2]
	既存家具等の養生 ・行う ・行わない [2.1.1]		- M 3 D I **DI-2 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **		・行う(図示 ) ・行わない PCコンクリート部村の入隅部に増張り(種別 S-F1, S1-F1、S-C1の場合)	モルタル	(一財)公共建築協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品
	設置範囲及び養生方法 ※ピニルシート等による ・図示		2種1号若しくは2号で 透湿係数を除く規定 ・設ける		・行う(図示 ) ・行わない ALCパネル下地の入隔部に増張り(種別S-C1の場合)	5 ポリマーセメント モルタル	(品質・性能・試験方法) (一財)公共建築協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品
	閉口部の養生     ・行う     ・行わない     [2.1.1]       養生方法     ・合板張りによる     ・()		に適合するもの又は JIS A 9511による A		・行う(國示 ) ・行わない	6 ポリマーセメント	[4,2,2]
	設置範囲 ※図示・( ) [2.3.1] 固定された構品、机、ロッカー等の移動		種硬質为49.72-1-模選 板 2種1号又は2号で 透湿低數を除く規定	8 塗膜防水	工法 種別 施工箇所 協力制反射率 協力 協力 協力 協力 協力 協力 協力 協力 協力	. スラリー	広がり速度 長さ変化率 引張接着性 曲げ性能 収水性 耐久性 耐久性 (のn/s) (収縮) (材能28日) (材能28日) (7 2時間) (劣化曲げ途さ) 3以上 3 % 0 - 4 9 N/ml 4 - 9 N/ml 1 5 %以下 4 - 9 N/ml
	W (		位 座 ( M C M C M C M C M C M C M C M C M C M		※X-1       ・POX     ※X-1       ・X-2     ・無       ・数     な修用ドレン・設ける・設けない	-	
3 仮設間仕切り	仮設開仕切り等の種別     【2.2.2】[表2.3.1]       種別下地     仕上材(厚さmm)     充てん材 塗装		脱気装置の種類及び設置数量 ※アスファルトルーフィング類製造所の指定による・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・L4X         ・X-1         ・有 脱気装置 ・設ける ・設けない	-	保水係数 0.35 ~ 0.55 粘調係数 0.50 ~ 1.00
	・A種     ※軽量鉄骨     両面     ・合板(※9.0     ) 厚さ     mm     ※無し       ・B種     ・木下地     片面     ※せっこうボード(※9.5     )		・脱気装置の種類( )、設置数( ) 州当たり1個 屋根露出防水絶縁新熱工法の場合、ルーフドレン回り及び立上り都周辺の新熱材の張りじまい位置		※ X-2 ・無	7 既製調合モルタル	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、組骨材、 [422]
	C種         単管下地         全面         防炎シート         ※無し           仮設庫         ※有返り程度・         ※無し           ・解製庫         ※片面フラッシュ程度・         ・有り		※図示 ・		- PIY     ※Y-2     - 有     保護層     ・設ける     ・設けない       - P2Y     ※Y-2     - 有     保護層     ・設ける     ・設けない	-	混和剤等を予め工場にて所定の剤合に配合した材料とする。 (品質・性能・試験方法) 建築材料等品質性能表による
	39 akarr   (AZT M Z Z Z Z Z Z M M M M M M M M M M M M		工法         種別         施工箇所         債考           ・P1E ・E-1         保護層 ・設ける		無   無     無	-	A A 777 4 W A L A B A C C C C C
4 監督職員事務所	・既存建物内の一部を使用する ・構内に設置する ※設けない [2.4.1] ・規模及び仕上げの程度は現場説明書による				・脱気装置の種類( )、設置戸数( )㎡当り1個 仕上塗料 ・カラー ・シルバー		
⑤ 工事用水	構内既存の施設 ・利用できる(・有頭 ・無償) ※利用できない		※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 屋根排水溝 ※図示		種類 ※製造所の指定による 使用量 ※製造所の指定による	4-1 1 ひび割れ部改修工法	- 機能注入工法 工法の種類 ひび割れ幅(mn) 注入日間隔(mm) 注入量(m1/m)
(5) 工事用水	・ 構内成存の施設 ・ 利用できる(・ 有談 ・ 無領) ※利用できない	6 改質アスファルト シート防水	防水層の種別 [3.4.2-3] 高日射反射率 高日射反射率	<ul><li>③ シーリング</li></ul>	シーリング改修方法の種類 (3.7.2~8	,	上次の種類
⑥ 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる(・有債 ・無債) ※利用できない		工法         種別         施工箇所         断熱材G         助水の適用G         備考           ・AS-T1         ・有		・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法	, H	・事動エエポキシ樹脂     0.2以上~0.3未満     ・50~100     ・ 数40       法入工法     0.3以上~0.5未満     ・100~200     ※ 70
		-	- NA4S - AS-T2		・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法	壁	機械式エポキシ樹脂   0.5以上~1.0以下   150~250   ※ 130   ・
3-0	種別 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (注:1) (表) (表) (2.1) (元) (表) (注:1) (表) (注:1) (表) (注:1) (表) (注:1) (表) (注:1) (元) (注:1) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元		- AS-T3 - AS-T4 - 有 - 設けない - AS-J1 - 設けない		ボンドブレーカー張り ・適用する ・適用しない ェッジング材張り ・適用する ・適用しない	後     修     エ	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア接取り検査 ・行う
工工工	(連絡先 (選 搬 ・発生原 <del>因官</del> 領 ・木工率 km )		- AS-J3		シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による	事	コノ成収り検室 177 ※行わない 接取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個
2 建設発生土の処理	※現場説明書による (3.2.5) ・構外搬出者可処理		- 設けない - AS-T3 脱気装置		施工箇所 シーリング材の種類(記号)	-   コ   ン	抜取り部の補修方法 ※図示 ·
	構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷き均し		- POAS - AS-T4		シーリング材の目地寸法 ※改修標準仕様書3.7.3(a) (1) ~ (3) による・	-   ク   -   リ	・リカットシール材充填工法・・シーリング材
② ① 共通事項	施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける	-	・AS-J3		接着性試験 ※簡易接着性試験 - 引張接着性試験 [3.7.8		充場材料 ※1減分形又は2減分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
(3)   5 / 7 / 7 / 7	本修用ドレン (POAS, POASI, POD, PODI, POS, POSI, POXの場合) 取付方法等は、ルーフィング類製造所の仕様による		- NSASI - ASI-TI (材質) - NSI-TI (材質) - NSI-TI (水質) - ASI-TI (水質) - ASI-TI (水口) - A ・設ける	(1) En	といの材種         [3.82:3]           種別         材種         億 施工箇所 備 寿	- 放	・可とう性エポキシ樹脂
水 改 ② 降雨等に対する	※改修標準仕様書 3.1.3(e)(1)~(3)による [3.1.3]				● 受賞ポリ塩化ビニル管 100 竪箱 ・配管用鋼管	-   0 -   仕   -   上	・シール工法 ・パテ状エポキシ樹脂
修 エ 事 ③ 既存防水の処理	既存保護層の撤去 ・行う(範囲 ・図示・ ) [3.2.3-4-6]		るもの又はJIS A 95/IIによる A 種種質かが27-14保温材の保 温板2種 号叉な2号で透湿係 防湿層		たてどい - ステンレス鋼管 - リサイクル接質は 15.6条砲三層管 [G] - リサイクル接質は 19.2年化じ、15条砲三層管 [G]	-   げ   -   外   <sub>2 欠損部改修工法</sub>	・可とう性エポキシ樹脂 ※光填工法 [422] [437]
事	(		数を除く規定に適合するもの		軒さい ・	- <u>壁</u>	※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル
	・行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・行う(・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X)		仕上塗料 カラー シルバー 種類 ※製造所の指定による		ルーフドレン 種別 施工箇所		/
	<ul><li>行わない</li></ul>		使用量 ※製造所の指定による 改賞アスフルトンートの種類及び厚さ		○ 万 < 屋根用 ( ○ 味型 ・ 模型 ) 屋上 ・ パルコニー用 ・ パルコニー中観用	3 鉄筋腐食の補修 - -	回復目標レベル ※個久 ・延命 ・新加 補修の方法
(4) 既存防水層の 下地補修	既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※図示 [1.2.6] POS工法及びPOSI工法(機械式配定方法)の既存保護療を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修		※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による		- ・ ・	-	・ ひび割れ補修工法 ・ 鉄阪腐食補修工法
	及び措置 ※改修標準性様書3.2.6(d)(3)(wi)①~②による ・		部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準性標書表 3.4.1 から表 3.4.3 による・・		既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※図示 鋼管製といの防露巻き ※改修標準仕様書3.8.5による		含浸材使用 · 何り · 無し 表面被覆 · 無し · 中性化抑制材料 · 塩化物浸透抑制材料
5 アスファルト防水	屋櫃保護防水 [3.3.2~5]		脱気装置の種類及び設置数量 [3.5.2~4] [表3.5.1~3] ※改質アスファルトシート製造所の指定による・・		とい受金物 ※ステンレス製 ・鋼製(亜鉛めっき) ルーフドレンの取付け ※末はけがよく、床面より下げ、周囲の腺間にモルタルを充填		・鉄筋腐食抑制工法 ・中性化抑制/上法 · 塩害抑制工法
	防水層の種別		押え金物 ※改質アスファルト製造所の仕様による	11 アルミニウム製笠	* [19.24]		
	※A - 2 · A - 3	⑦ 合成高分子系 ルーフィングシート	防水層の種別  T法 種別 施工施所 断熱材区 高日射反射率 備考	. , 1 – , &	施工箇所 種 類 製品幅 呼称肉厚 表面処理 皮膜・複合皮膜 ・押出し250形 ・260~240 ・1.6以上 ・A-1種 ・AA15		
	・P1B     ・B-1       ※B-2     ・乾式 保護材・20付り・押え	防水	・POS         ・S-F1         助外の適用区           ・B気装置         脱気装置		・押出し300形     -300     -1.8以上     又は     -A1       ・押出し350形     -350     -2.0以上     B-1種     -A2		
	- P 2 A I - A I - 1 (材質) ※ 757+Y-79ロス ※ A I - 2 ※ JS A 9521による押出 70g/㎡程度		- S4S - S-F2 - ・ ・ 設ける - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		· ( ) · ( ) · 2.0以上 · ( ) · B		
	※ A I - 2   ※ UIS A 9521による押出   70g/㎡程度   - A I - 3   がリストシフォーム無熱材 3 種   - P 1 B I - B I - 1   bb (スキン 原付き)又は		- S-W2 - S-W3 - S-W3		・ t-7 ) 形式 ・ y-5 b f 形式 既存並木等の搬去 ・行う 範囲 ・図示 ・ )	.	
	・ T 1 B I		- S3S · S-F1 立上り部 ・ 脱気装置 ・ 設ける		・行わない 下地補修の工法 ※図示		
	の保温板3種5(45/2あり) (厚さ)・25mm ・		・設けない - M4S ・S-M1 平場部 脱気装置		板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 様上避雷導体システム ・無 有		
	改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準性標書3.3.3から表3.3.9による		○S-W2	12 折板葺			
	※以序性中は作習、3、3、3により 紛分結着用や変質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準性標書3、3、3から表3、3、9による		- S3S1 - S1-F2 (前)による ・ 設ける・ ・ 設けない				
	平埔の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上		M4SI     (厚さ)・25mm・     改修用ドレン・設ける       - SI-W1     (材質)・     ・設ける		(規格等) (CGLCCR-20-AZ150)		
	床夕イル張り ※水下 60mm以上 ・許寸保護		・SI-W2 ※改修編集性様書3.5.2(c)(3) (i)による (厚さ)・Z5mm		野先面戸板 ※有り ・無し  断熱材 ※有り (種): 厚さ: m.m.)・無し  耐火体性 ※ 3.0 分割 4 ・集!	/	
	<ul> <li>・乾式保護材 窓業系パネル:無石綿の機能質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの 金属板合板 :金属板と樹脂を積層一体化したもの</li> </ul>		(厚さ)・Zbmm・ ・		耐火性能 ※30分耐火 ·無し	/	1
	(品質 性能・試験方法) (一財)公共建築協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品		種類 ※製造所の指定による 使用量 ※製造所の指定による				石第6公舎屋上防水・外壁改修工事 エキ 設計図 A-03
			29040	1		改	修工事特記仕様書(その3) 平成29年版 不一03

1 肝存モルタル塗りの	行う・全面 ※図示の範囲	3 欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 [4.2.2] [4.5.7, 8] /	1	1) 所要量の確認	工程ごとの所要量の確認 ※改修標準仕様書4.6.1による [4.6.2][表4.6.1]	_ 4 アルミニウム製建具	性能等級 [5.2.2~5] [表5.2.2]		
4-2 撤去	TO John Mary 1994 and Mary 199	4-3	接着剤の種類・ポリマーセメントモルタル		<i>1)</i> /// 3.20 /2.00	THE COMMENTS AND THE PROPERTY OF THE PROPERTY	5 建	外部に面する建具 ・ A種(建物符号 ・ 建具表による ・ ) ※ B種(建物符号 ・ 建具表による ・ )		
登 ② ひび割れ部改修工法	· 樹脂注入工法 [4.4.2] [4.4.5~7]	壁	・JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系又はウレタン樹脂系	壁改	<ul><li>② 既存塗膜等の除去、 下地処理及び下地調整</li></ul>	工法         処理範囲         下地の補修         加圧力		・ C種(建物符号 ・ 建具表による ) 防音ドアセット、防音サッシ ・ 遮音性の等級(・ 建具表による )		
修	工法の種類         ひび割れ幅 (mm)         注入日間隔 (mm)         注入量 (m1/m)           ※ 自動式低圧エポキシ         0.2以上~1.0以下 ※ 200~300 ※ 130	修	・タイル張替え工法 接着剤の種類	修工		・サンダー工法     ・既存仕上面全体 ・30% ・50% ・行う       ・高圧水洗工法     ※既存仕上面全体 ・( ) ・行う ・30~100Mpa程度	修工	(建物符号:・建具表による・・)		
事	樹脂注入工法	事	・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系又はウレタン樹脂系	事		<td <="" colspan="2" td=""><td>事</td><td>断熱ドアセット、断熱サッシ[6] 断熱性の等級(・建具表による ) (建物符号:・建具表による )</td></td>	<td>事</td> <td>断熱ドアセット、断熱サッシ[6] 断熱性の等級(・建具表による ) (建物符号:・建具表による )</td>		事	断熱ドアセット、断熱サッシ[6] 断熱性の等級(・建具表による ) (建物符号:・建具表による )
±	注入工法	タ	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	塗		○  水洗い工法   ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体   ・行う   10~ 30Mpa程度   ・ ( )		耐震ドアセット ・面内変形追随性の等級(・建具表による )		
ター	注入工法	ル	位置 ※改修標準仕標書表 4.5.1による ・ 目地寸法 ※改修標準仕帳書表 3.7.3による ・ [3.7.3]	世	③ 下地調整塗材	※下地調整塗材 (○C − 1		(建物符号:・建具表による・		
	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア接取り検査 ・行う	張 り 	タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 ・行う ・行わない	一げ		・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材		枠の見込み寸法 建具表による 表面処理		
位	※行わない 抜取り個数 ※長ち500mごと及びその端数につき!個・	上	・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り	外     壁	O # 1 # # # # # # # # # # # # # # # # #			外部に面する建具 A-1種 A-2種 ※B-1種 B-2種 皮膜等の種類(※改修標準性様書表 5.2.2による		
上げ	技取り部の補修方法 ※図示	げ 外	タイル強りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良機上げ張り		4) 仕上げ塗材仕上げ	建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 [4.2.2] [4.6.5] ※規制対象外 - ・ 新規仕上塗材の種類		着色(* ) 屋内の建具 ※0-1種 · C-2種 · 中間を介護性(※)を標準は標準まりのロート7		
外	○ リカットシール材充填工法 ② ンーリング材 ************************************	壁(	外装ユニットタイル ・マスク強り ・モザイクタイル張り ・ ・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り			新規は工金柱の種類		皮膜等の種類(※改修標準仕様書表 5.2.2による ) 着色(・ ) 報露水の処理方法・図示・		
	充填材料 ※1成分形文は2成分形ポリウレタン系 ・ ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない	続 き	・ 物域を検え用による物域を終えてルボッシーリング村の種類 打職ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系			・ 薄付け仕上塗材 ・ 外装薄塗材 S i ・ ・ 砂壁状 ・ 可とう形外装薄塗材 S i ・ ・ ・ ・ ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り)		・		
	・可とう性エポキシ樹脂		伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系			・		種類   材種   線径   網目		
	・シールエ法 ・パテ状エポキシ樹脂	4 浮き部改修工法	[4.2.2] [4.5.9~15]			・防水形外装薄塗材 E ・ ・ 凹凸状 (・吹付け ・こて塗り) ・外装薄塗材 S ・ ・ 若色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り)		※ ガラス繊維入り合成樹脂製・・ ステンレス (SUS316) 製		
	・可とう性エポキシ樹脂		7ンカ-ビンの本数 注入口が箇所数 充填量 注入量 エ法の種類 (本/ml) (箇所/ml) (ml/箇所) (ml/箇所)			- 砂壁状じゅらく - 京壁状じゅらく		- 防島網 ・ステンレス (SUS304) 線材 1.5mm 網目寸法 15mm		
3 欠損部改修工法	- 充填工法 [4.4.2] [4.4.8, 9]		- 般部 指定部 - 般部 指定部 - ・アンカーピンニング部分 ※ 16 ※ 25 ※ 25			・ 厚付け仕上塗材 ・ 外装厚塗材 C ・ ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 外装厚塗材 S; ・ ・ 四凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	5 樹脂製建具	性能等級 [5.2.2] [5.3.2~5]		
	・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル		エポキシ樹脂注入工法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			・外装厚塗材 E     上塗材 ・適用する ・適用しない       ・複層仕上塗材 ・複層塗材 C E     ・ゆず肌状 ( 吹きつけ ・ローラー塗り)		外部に面する途具 ・A種 (建物符号 ・		
	・モルタル塗替え工法 既製目地材 使用する(形状)		エポキシ樹脂注入工法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			- 可とう形複層塗材 CE 凸部処理 ・ 凹凸模様 - 散層塗材 Si 一 影候性 ※耐候性 3種		・ C種 (建物符号 ・ 建具表による ・ ) 防音ドアセット、防音サッシ ・		
	仕上げ厚又は全堂厚が 25mm を超える場合の措置 ※図示		ボリマーセメントスラリー注入工法   ・			・被原金材 E ・ 上塗材 ・ 技原金材 E ・		(建物符号 / 建具表による・)		
④ 浮き部改修工法	[4.2.2] [4.4.10~15] 7ンホービンの本数   注入口の箇所数   先項量   注入量		エポキシ増脂注入工法 - 注入ロ付アンカーピンニング全面 ※ 9 ※ 66 ※ 9 ※ 16 ※ 25 … ※			- 防水形域原差材 C - 機脂 ※アクリル系 - 防水形域原差材 E - 外戦 ※つやあり - つやなし -		断熱ドアセット、断熱サッシ⑤ ・断熱性の等象 (・H - 4 ・H - 5 ・H - 6) (建物符号 ・ 建具表による ・ )		
	Tab		- 注入口付アンカービンニング全面 ※ 9 ※ 16 ※ 9 ※ 16 ※ 50 ※ ボリマーセメトスラリー注入工法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			・		枠の見込み寸法 建臭表による · 表面色 ※標準色 ・特/3/色		
	- アンカーピンニング部分 ** 16 ** 25 **		・注入口付アンカービンニング全面 ・ ※ 25 ・ ※ 25 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			耐候性 ※耐候性3種 ・ 可とう系改修塗材RE 上塗材		水切り板、ぜん板 ※図示 ・ ガラス ※複層ガラス ・		
	● アンカーピンニング全面 ※ 13 ※ 20 ※ 12 ※ 20 … ※ 25		・充填工法       ・モルタル塗替え工法			・可とう系改修塗材CE 樹脂 ※アクリル系				
	・アンカーピンニング全面     ※ 13     ※ 20     ※ 12     ※ 20     ※ 50       ボリマーセメントスラリー注入工法     ・     ・     ・     ・     ・		アンカービン			外観 ※つやあり · つやなし - メタリック	6 鋼製建具	性能等級 簡易気密型 ・適用する (建具符号 ・ 建具表による ・ )		
	・注入口付アンカーピンニング部分     ※ 9 ※ 16     ※ 25       工ポキシ樹脂注入工法     ・		※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの			防火材料の指定が必要な場合 [4.2.2] (15.5.2)		・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-A (22度将号 ・建具表による ・ )		
	・注入口付アンカーピンニング全面     ※ 9     ※ 16     ※ 9     ※ 16     ※ 25       ・ エポキシ樹脂注入工法     ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		注入口付アンカービン ※ステンレス鎖 (SUS304) 呼び径外径6mm		5) 塗膜防水仕上げ	※避棄基準法に基づく認定を受けた材料とする。 ※アクリルゴム系塗膜筋水工法		・5/5 (競具符号 ・ 2 2 月表による ・ ) ・		
	- 注入口付アンカーピンニング全面 ※ 9 ※ 16 ※ 9 ※ 16 ※ 50 ポリマーセメントスラリー注入工法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		・タイル部分張替え工法 接着剤の種類		5) 坐膜初水位上门	※アンリルコム共全球的ホ上流 JIS A 6021−2000 (建築用塗膜防水剤) 外壁用に適合するものとする。 JASS8 L−AW同等		防音ドアセット、防音サッシ - 適音性の等級 (・建具表による ・ ) (建物符号・・建具表による ・ )		
	- モルタル塗替え工法		** ボール *** ボール・ボリマー セメントモルタ *** ・ボリマー セメントモルタ *** ・ ボリマー セメントモルタ *** ・ ボリス *** ・ ボリス *** ・ ボルン			仕上げの形状 ・ゆず肌状 ・ 心部処理 (○)四凸模様		「無効性ラン・ (建物存号・・ 進具表による ) (建物存号・・ 連具表による )		
	アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの		・タイル張替え工法		6 マスチック塗材塗り	世別 ・A種 ・B種 (仕上材塗り EP-G ※B種 ・A種) [4.7.2] [表4.7.1]		耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 (・建具表による ) (建物符号:・建具表による )		
	注入口付アンカービン		接着剤の種類 ・ポリマーセメント NJルタル		7 外壁改修数量表			鋼板		
	※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径6mm ・		- JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系又はウレタン樹脂系			工         単位         寸法等         既存仕上         操 名           滑石第6公舎		材料     めっき付着量     厚さ       ・JIS G 3302 (溶酵亜鉛めっき鋼板)     ※Z12又はF12 ・ 標準仕様書表5.4.2による		
			伸縮調整目地及び500桶れ誘発目地 位置 ※水体標準性保養表4.5.1による・ 目地寸法 ※水体標準性保養表3.7.3による・			Uカットシール材充填工法     m     0.2mm以上     コンクリート       1.0mm以下     モルタル     15.0       タイル		・JIS 6 3317 (溶風亜鉛-5%アルミニウム 分金めっき銅板)		
	<ul><li>・ エホキン傾面セルダル ボリマーセメントセルダル</li><li>モルタル塗替え工法</li></ul>		日地寸法 が成体標準在検査表3.7.3による ・			ダイル   ダイル				
	既製目地材 ・使用する (形状 ) 仕上げ厚又は全塗厚が 25mmを超える場合の措置 ※図示・		・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り			アンカーピンニング全面 コンクリート	7 銅製軽量建具	性能等級 [5.2.2] [5.5.2~4] 簡易気密起 ・適用する (建具符号 ・建具表による ・ )		
			タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り			エポキシ樹脂注入工法 mi モルタル 35.0 タイル		・適用しない 防音ト/フセット、防音サッシ ・適音性の等級 (・建具表による ・ )		
4-3 既存タイル張りの 搬去	外壁タイル張り全面 · 図示の範囲 搬去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで ・タイルのみ		外装 ユーットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り			鉄筋腐食補修工法 m コンクリート モルタル 1.0		(建物符号 ・		
外 2 ひび割れ部改修工法	改修箇所 ※既存タイル張り面 [1-2.2] [4.5.5, 6]		・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り シー/レング材の種類			タイル   コンクリート   コンクリート		断熱ドアセット、断熱サッシ⑤ ・断熱性の等級(・・建具表による ・ ) (建物符号 ・ 建具表による ・ )		
改   修	・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面) ・樹脂注入工法 - 工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入目間隔 (mm) 注入量 (m1/m)		状態ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ボリウレタン系 ・ 伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 ・			箇所   モルタル   タイル		耐震ドアセット - 面内変形追随性の等級 (・222 異表による ・ ) (建物符号 ・22 異表による ・ )		
事	** 自動式版圧 ボキシ   0.2以上~1.0以下   ※ 200~300 ** ** 130 ** ** # # # # # # # # # 2	5 目地改修工法	   目地ひび割れ部改修工法					/ 類板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ピニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板		
9	・ 手動式エポキシ樹脂     0.2以上~0.3未満     ・ 50~100     ※ 40     ・       注入工法     0.3以上~0.5未満     ・ 100~200     ※ 70     ・		・ 仲縮調整目地改修工法				1 /	鋼板の厚さ ・改修標準性様書表 5.5.1による 召合せ、縦小口包み板の材質 ※ステンレス鋼板 ・鋼板		
イ ル	・機械式エポキシ樹脂 注入工法 0.5以上~1.0以下 ・150~250 ・ ※ 130 ・	/	シーリング用材料 種類 ※改修標準性様書表3.7.2による	5	1 改修工法	建具の種類 かぶせ工法 撤去工法 適用箇所 アルミニウム製建具 ・ ・ 建具表による				
張     り	エボキン樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形	/	[422]	建具具		- 樹脂製雑具	8 ステンレス製建具	性能等級 簡易気密型 適用する (建具符号:・建具表による )		
住   上	コア技取り検査 ・行う ※行わない 地形以網路 ※企業500mでよりがよの機器につき1種・	6 タイルの形状、 寸法等	主な用途による 形状寸法 (戦水率による区分) うわぐすり (役物) 色 再生材の耐速客性 財消 (成素な) (mm) [類 [取類 [取類   版ゆう   無かり 有 無 無率   特注 適用() 有 無 り性	修修		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・適用しない 外部に面する避具の耐風圧性 - S-4(避具符号 - 遊具表による - ) - S-5(遊具符号 - 遊具表による - )		
け   外   <sup>院</sup>	抜取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個 抜取り部の補修方法 ※図示			事		・		・S-5 (建具符号 ・ 選具表による ・ ) ・S-6 (建具符号 ・ 建具表による ・ )		
보   발	- Uカットシール充填工法 (既存タイル撤去面) - シーリング材					朝 (水に 風水 と 広 い ら 地 日 壁 都 分 の 関 ロ の 間 け 方 新 規 建 長 月 圏 の 補 修 エ 法 及 び 範 囲 ※ 図 示		防音ドアセット、防音サッシ ・返音性の等級(・建具表による ) (建物符号 ・建具表による )		
	充填材料 ※/成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセグントモルタルの充填 行う		標準的な曲がりの役物は一体成形とする		2 防火戸	・適用する 適用箇所 (建具表による・・・・) [5.1.4]		断熱ドアセット、断熱サッシ(3) ・断熱性の等級( ・違具表による ・ )		
	·fibati		試験獲り ・行う ・行わない 見本張り ・行う ・行わない			・適用しない		(建物符号 ・建具表による ・ )		
	・可とう性エポキシ樹脂		・モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目煮し工法(高圧水洗処理)		3 防犯建物部品	・適用 ( ) 適用箇所 (・ 2 2 2 表による ・ ) (5.1.7) 通用しない	/	耐震ドアセット 面内変形追随性の等級(・建具表による ) (建物符号 ・建具表による )		
			・壁タイル張りの工法 外装タイル、※密着張り - 改良積上げ張り - 改良任着張り 内装タイル張り以外のユニットタイル - マスク張り - モザイクタイル張り				/	鋼板 (屋外) ※ SUS304 SUS430JIL SUS443JI 鋼板 (屋内) ※ SUS430 SUS430JIL SUS443JI - SUS304		
			<ul><li>・ は数別合をルタル</li><li>・ で スク強り ・ モザイクタイル強り</li><li>・ 仮数別合をルタル</li></ul>				/	新俊(座内) ※9104-301 - 3005-301 - 3		
			モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、 混和剤等を予め工場にて所定の割合に配合した材料とする。		•		/	- * In a		
			(品質・性能・試験方法) 建築材料等品質性能表による					石第6公舎屋上防水・外壁改修工事 工 * 設計図 A-04		
		/	290401				改	修工事特記仕様書(その4) 平成29年版 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――		

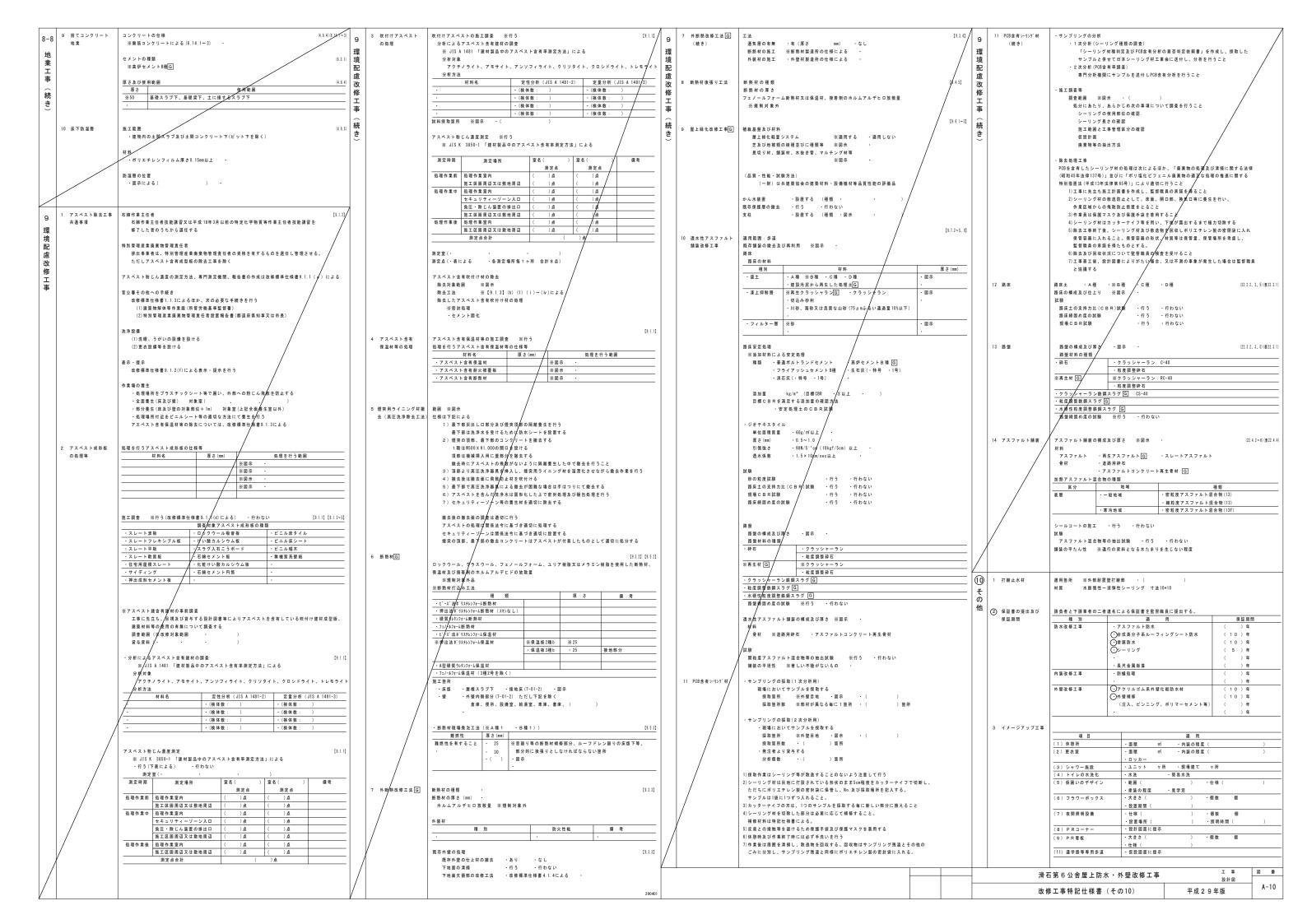
The content of the	9 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 ・ ((6.7.2~4)/	14 終景:	シャッター	開閉形式 ※手動式 ·上部電動式 (手動併用) [5.11.2~4]/	1 3	3 既存壁の撤去及び	間仕切壁搬去に伴う他の構造体の補修 [5.5.2]/	<b>1</b>	・パーティクルボード[G]
The content of the	5 ******	建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量	5 14 ****	J + 9 <b>3</b> -	シャッターケース ※設ける ・設けない / 6	3   "		※改修標準仕様書 4.4.9によるモルタル塗り		厚さ 表裏面の状態 曲げ強さ 接着剤 難燃性
	選     具	※規制对象外 ・	建     具		1 / 1 * *	¶   €		/		
The content of the	改		1 77 1		/ / *	Ž		[651] [#651]		·   -
The content of the	I I	合板の種類 規格等 備考	">		・JIS G 3322 (塗装溶融 55% アルミニウムー亜鉛合金めっき銅板) エ	Ē 4		表面仕上げの種別 適用箇所		
	事	生地、透明塗料塗り	事		スラットの形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形	<b>F</b>	衣田位上げ	<b></b>		施工国所 (mm) 等級
	続		続			売		· C種		・ 1級 ・2級 ・3級 ・4級
The content of the	<del>e</del>		ਵੱ			=	: ##C	. 「刺せの口士亀井坦牧」 ニトズ下 処田仏幸掛削せ		
The content of the		接着の程度(・1類 ・2類 )			/	"	# 19 GJ			[6.5.3-4] [6.8.2] [6.9.3] [6.11.4, 5]
The content of the			15 オーバ	バーヘッドドア				(mm) の適用	9接着剤	
The content of the								- 「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 [6.5.2]		
The content of the		表面性能( )タイプ			・アルミニウムタイプ ・100 ・チェーン式 ・ローヘッ/ド形 めっき鋼板			「	10 Pt of  Pt 49 in 19	[6.5.5]
The content of the									10 以為"以東定理	
April   Apri								見え掛り面 ・上小節以上 /※A種・B種・		・薬剤の加圧注入による防腐、防蟻処理
The content of the			16 ガラス	z	・会わせガラス [3.7] [5.13.2~4] [恵5.13.1]			以外		
The content of the		· ふすま			材料板ガラスによる種類 構成種類 性能					
# 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はピニル紙程度 押入等の展側は雲花紙程度			・熱線吸収、フロート板合わせがラス			施工箇所 樹種 (mm) 等級 形状 含水率 の適用		適用部位処理の方法
March   Marc										
A STATE   19   19   19   19   19   19   19   1		/			・強化ガラス			・「梨材の日本農林規格」以外の製材		※改修標準仕様書 6.5.5(a)(iii)②7~1による・
Table   Property   P		・紙張り障子			材料板ガラスによる種類 構成種類 性能			施工策所 樹類 寸法 材面の 防中机理 軽微机理 会水率 間伐材等		
The control of the					・熱線吸収強化ガラス			( ) ・適用する · 適用する ※ A種 · B種 · ·		超 力 即 以 (
Control   Cont					・型板強化ガラス				11 床板張り	縁甲板 ※ひのき・ [6.5.8]
The content of the	10 建具用金物	/			・熟練吸収板ガラス			・代用樹種を使用できない箇所(		/
The Control of Contr									12 軽量鉄骨天井下地	/
A		・握り玉 材質 ※ステンレス				6	造作用集成材G	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・		・屋外の軒天井、ピロティ天井等
The control of the		(性能)			・複層ガラス			寸法 間代材等		
Total Control   Total Contro		/						(mm) / の適用		野緑の間隔 - 300程度 - ( )
The first   The								「集時材の日本農林穏格」による小鉢1切り海作用集時材		
A STATE   A ST		握り玉 材質 ※ステンレス			・日射熱遮へい複層ガラス ・4種 E4					
## 15   15   15   15   15   15   15   15		レバーハンドルの材質 ※亜鉛合金 ・ステンレス								
Column   C		1						・「集成材の日本農林規格」による(化粧ばり構造用集成柱		補強方法 ※國示 ・
Column   C		1								
1.		Grade1 % Grade2			・高性能熱線反射ガラス ・3種 ・B種					
## STATE OF		・ヒンジクローザー (丁番型)			反射被覆面 · 内面 · 外面					
## 1 - SECOND   SECON					映像調整 ・行かない ※行う					・屋内外への耐震補強
Column   C								※15%以下・		
1. Sec.   1. S		Grade1			<ul><li>・熱線吸収タイプ</li></ul>					
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1		・押棒、押板			· (( )			施工国所 の樹種 の樹種 (mm) の厚さ(mm) 面の品質 音水平 の適用		
The Property   The										補強箇所 · /図示 ·
日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日								化鋅蓮板 苦材 寸法 化鋅蓮板 具付け材 間伐材等		補強方法 / 図示
1   3277/2002   10   10   10   10   10   10   10					・ 整線吸収倍強度ガラス ・ブルー ・グレー ・ブロンズ			/ の樹種 の樹種 (mm) の厚さ(mm) 血の品質 の適用	13 軽量鉄畳壁下地	スタッド、ランナーの種類 [673] [赤671]
1. 28 17 17 18					V					※改修嫌準仕様書 6.7.3 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
1 日本	11 自動ドア開閉装置	自動ドア 性能 防錆 センサーの種類 凍結防止		/	・アルミニウム製 ※シーリング材(SR-1) ※改修標準仕様書表 5.13.1による	7	造作用単板積層材G	ホルム ルデヒド放散量 ※規制対象外 ・		
「日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日		・SSLD-2 による ※光線(反射)スイッチ							14 ビニル床シートG	
中の				/	・鋼製及び鋼製軽量 ※シーリング材 (SR-1)       ※改修標準仕様書表 5. 13. 1による			/ (㎜) の適用		
1 日本		・♪SWD-1 ※改修標準仕様書表5.8.1 ・光電スイッチ 建具表による)		/						・発砲層の・ ・無地 ・防滑性
・・サルス・インドゥー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		· \$ " F X 1 " F					,			工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所: )
1 日本記   1		・ペダルスイッチ		/			/	海工策所 厚さ 表面の品質 防虫机理 含水率 間伐材等	/	帯電防止 ・帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満
報告というと、			/	/	・正方形 ・ ※クリア ※無し		/	(mm)         の適用           ・着用する         ※14%以下	/	
報告シャー まきな表名ベッド 18番目 ・					・長方形・有り		/		15 ビニル床タイルG	[6.8.2] JIS記号 施工箇所 色柄 寸法 特殊機能 厚さ(mm) 備考
2 日本大		補助センサー ※安全光源スイッチ1組装置付・(	17/#= 7	ス用フィルム	名称 籍 福川市 性能結					-FT ※無地 ※300×300 -帯電防止 ※2.0
1 重型シザッター   単元   1 重型シザッター   単元   1	10 00 00 -		/				## U B & # ** [2]			- 3.0
- 管理用シャッター 接租日産(			/		- L 最質 JIS A5759による	8	床放り用/首敬等[G]	·普通合板G	/	(コンボジッションピニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・防滑性 ・3.0
- 管理用シャッター 接租日産(	13 重量シャ/ッター		/   18 鍵箱					應工箇所 厚さ 表板の 接着 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用		
- 連用用商売シャッター   お表育の主義者   技術機能をよる後属 米上部電散式 (事務の用) ・上部手助式   選出所商品とも連加   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大		・管理用シャッター 耐風圧強度 ) N / m 2 ※障害物感知装置(自動閉鎖型)	/					※5.5 ・ラワン ※1類 広葉樹 ・適用する	/	(置敷きピニル床タイル) ・柄物 ・防滑性
内内的成シャック=近くは防煙シャッターの危害助と推薦   大き   大き   大き   大き   大き   大き   大き   大		・屋内用防火シャッター ※危害防止機構	y	節囲	解方照件切除の拗まに伴う当弦辞の数リムミエサ 降取び亡のか故草回			針葉樹		特殊機能
接触			6 5	40 KII	※壁面より両側100mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示	/	/	- X0-08/T	/	
***			内     装			$\parallel \mid /$	•		/	置敷形ピニル床タイル(FOA・FOB)の接着剤は粘着はく離形とし、製造所の指定する製品とする
### 15   15   15   15   15   15   15   1						/		原さ 等級 接着 板面の品質 有効断面 防虫処理 強度等級 の適用 の程度 板面の品質 保敷比 防虫処理 強度等級 の適用	/	
管理用シャッターのシャッターケース     ・設付る・設付ない       スラット及びシャッターケース用類板     ・下地柱ルタルとも(図示の範囲・撤去範囲全て)       類板の種類 ・JIS 6 3322 (溶験重動かっき類板)     ・JIS 6 3312 (塗装溶験重動かっき類板)       かっきの付着量 ※212又はF12 ・     カっきの付着量 ※212又はF12 ・      ****		リモコンの有無 ※無 ・有(リモコン個数 個)	<u>                                   </u>			/		※12   ※2級以上   ※1類 · C-D以上   ・適用する ・適用する ・	/	
類版の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	/	管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない	2 既存日			′			/	
7月 15 to 3312 (登装 滞然 型 取 かつき 前 4 が ) かつき の付着量 ※ 212又は F12 ・		鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	下地神	補修	★ 合成樹脂塗床材の撤去工法 ・機械的撤去工法 ・目荒し工法				<u>/                                    </u>	
/   ¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬									- 滑	日 第 O 公 音 座 工 切 小 ・ 外 空 以 修 工 争 <sub>設計 図</sub>
	/								改化	修工事特記仕様書(その 5) 平成 2 9 年版 A-05

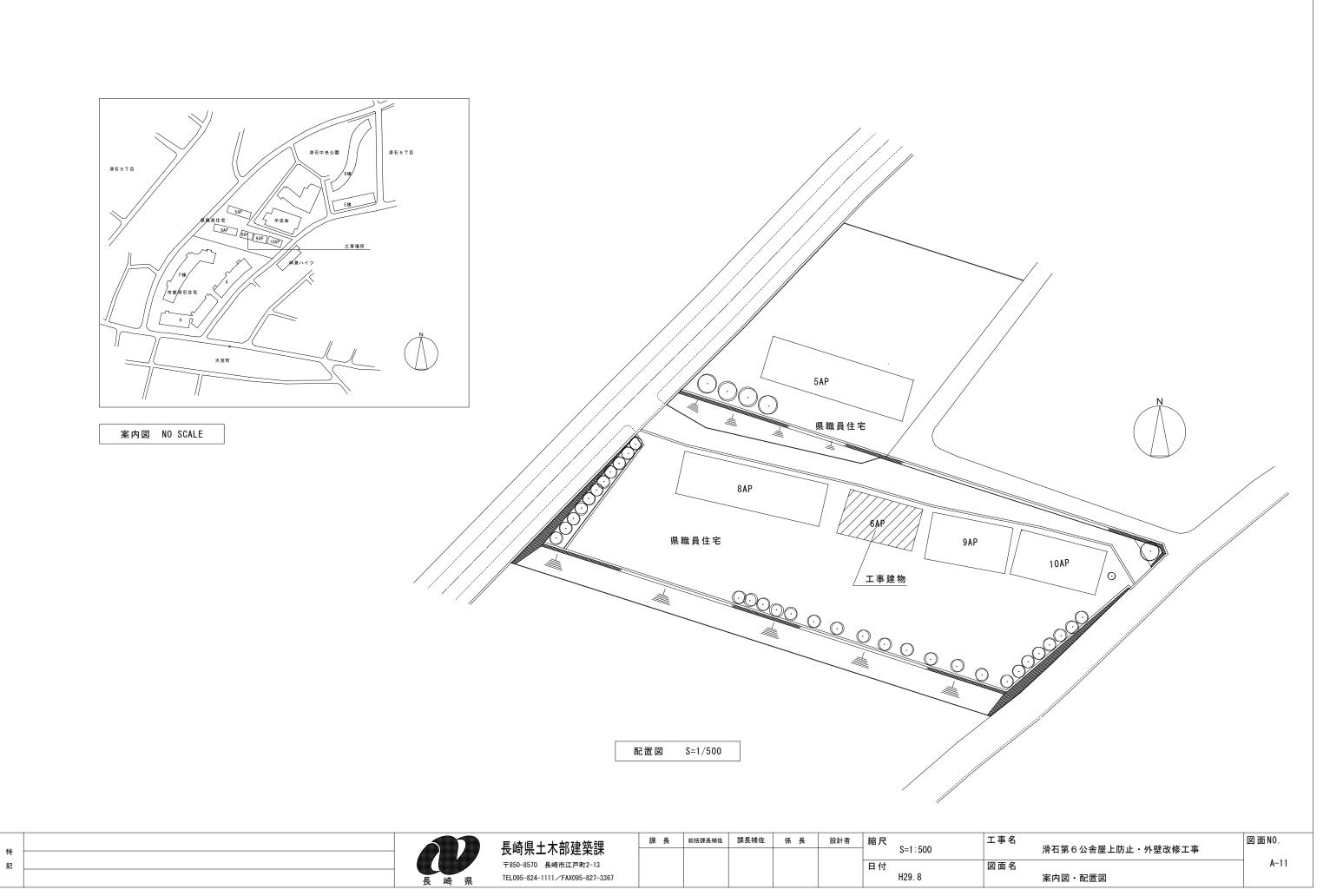


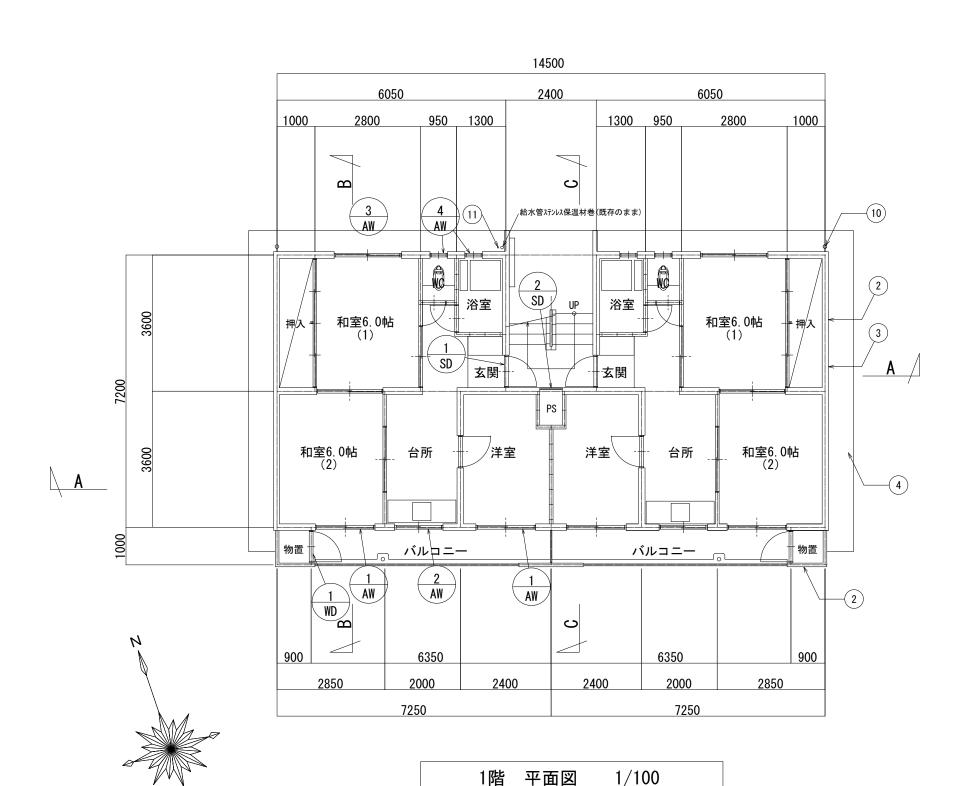
						1			
6 <sup>41 天井点検口</sup> 内	・600×600     ・屋内用     ・目地タイプ     ・目地タイプ	① 材料	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放教量 [1.1.3] ※規制対象外 ・ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする	8 耐	1 適用範囲	公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)第8章 耐震改修工事 上記 第8章 耐震改修工事以外の工事で第8章を引用している工事 耐震改修工事以外については、新営特記仕様書を適用とし、別途記載を行う	8-1	8 圧接完了後の試験	外報試験 [8.3.8] (5.4.9)(5.4.10) ※行う(全数)
装     改	(品質・性能・試験方法) (一財) 公共接獎協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品	装 改 修	- 次の箇所を除き防火材料とする (箇所: ) [7.2.1~1]	震し改修		エ事内容 ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・鉄骨ブレースの設置工事(・既存実基件配置型 ・完全外付け型)	震改		超音波探衝試験 ※行う 箇所敬 - 全圧接部
工事		工 ② 下地調整	塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※塗替画機の30% 図示	工事		・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・柱補強工事 (銅貨巻き工法又は帯板巻き工法)	修工事		・標準仕様書5.4.9による推取試験 ・行わない
42 床 <sub>点検</sub> 口   続	村種   寸法   勝式   場告		下地調整 下地調整の種別	共		・柱・摩ຟ金工事 (連接線維持強工法) - 計板	鉄	9 帯筋	超立の形の種別 ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 6.2 ・H形 ・ 形)
<del> </del>	底板 ※鋼製 ・   ・結霧防止形   -		下地面の種類         塗替え         新規         Uび割れ部の補修           木部         ※RB種・・・・・         ・・・・・	通 事 項		(PCaアウトフレーム ・現場打ちアウトフレーム) ・免疫改修工事	筋工		・図示による ( )
	(一財)公共遊獎協会の建築材料・設備機材等品質性能の評価品		鉄側面 ※RB種・ 亜鉛めっき面 ※RB種・ 亜鉛めっき面 (類製理具) ※RB種・ 素地ごしらえによる	*		・制振改修工事	事(編	10 壁開口部の補強	- 段壁 - 恩宗による(構造関係共通図(配防標準図) 8.2 ・A形 ※8形 ) (5.2.7)
43 造作家具	合版類、MDF、パーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒドの放散型 ※既製対象外品 第三種品		モルタル、ブラスター面     ※RB種・・・・行う・・行わない	8-1	1 鉄筋	鉄筋の種類 (8.2.1) ( 種類の記号 呼び名(mm) 備考	8.2.17		耐震整
44 くつふきマット	材種 受け枠 備考		コンクリートパネル面 (DR以外)、 ※R B 種 ・ A L C パネル面 コンクリート面 (DP) ・ ・行う ・ ・行う	耐震		- SD295A - SD345	_		・図示による( ) .
	・塩化ビニル又はゴム製     ・ステンレス鋼 (SUS304)製       ・硬質アルミニウム合金製     ・硬質アルミニウム合金		押出成形セメント板面   ・行わない   ・行わない   ・	改     修     工				11 最上階柱頭補強	補強方法 ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 6.1)
	- ステンレス領(SUS304)製		その他ボード面	事	2 溶接金網	形状等 種類 種類の記号 網目の形状、寸法鉄筋の径(mm) 使用部分 - 溶接金網	8.2.2]	12 片持ちスラブの	・図示による( ) 配筋方法
45 ステンレス流し台	※籔負住宅部品(セクショナルキッチン) ・ ( ))	③ 錆止め塗料塗り	錬止め塗料塗りの種別 [1.1.2, 3]	鉄筋		・鉄筋格子	_	隅出部の補強配筋 (出隅受け部分の	・図示による(構造関係共通図(配防標準図) 9.2) ・図示による( )
	上核及びシンク度都はステンレス製、単槽シンク、トラップ付		塗装面         塗料         工程           鉄鋼面         EP-G以外         塗替え         A種         ※C種・           新規鉄鋼面見え掛り         A種         ※A種・	事	3 鉄筋の継手	継手方法等 (13.4] [8.42] 新位 継手方法 呼び名(mn)	1.4.3]	補強筋を含む)	出隔部分及び出隔受け部の補強筋 ・図示による( )
	・〒1500×0550~600×H800 ※4枚・( ) ※1枚 ・( ) サイドパネル付 ・〒1800×0550~600×H800 ※4枚 ・( ) ※2枚 ・( )		新規見え隠れ A種 ※B種 · EP-G 塗替え B種 ※C種 ·			せ・梁の主筋 ・ガス圧接 ・機械式線手 ・溶接線手 ・重ね線∮ 耐力壁の主筋 ・重ね線手		13 梁貫通孔の補強	補強形式
46 コンロ台	※飯良住宅部品(セクショナルキッチン)・ ( )		新規鉄調面原え掛り B種 ※ A種 - 新規製え隠れ B種 ※ B種			その他の主筋( ) ・重ね継手・ 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ	1.3.4]		・図示による(精達関係共通図(配筋標準図) 11.1 H 形) ・図示による(
	テーブルトップはステンレス製、バックガード (※有り ・無し) 寸法 関戸		新規鉄鋼面見え掛り         ・B種         A種         ※A種           EP-G         塗替え         C種         ※C種			・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(a) 表3.1) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(a) (3) )			配筋種別 ・図示による(構造関係共通図 (配筋標準図) 11.1)
	- N700×0550~600×H620 ※2枚・( ) - N600×0550~600×H620 ※1枚または2枚・( )		新規鉄鋼面見え掛り C種 ※A種 ・			・図示による() 観手位置図			・図示による( ) 梁貫通孔径(部材配号含む)及び配筋種別リスト
47 吊戸棚	※優良住宅部品(セクショナルキッチン) ・ )	4	工程   工程   金装面   上程   かがる			- 図示による(構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、3、8.1) 既存鉄筋との継手		14 基礎梁主筋の継手	・図示による( ) ・図示による(横遠関係共通図 (配筋標準図) 5/1(b)による(・全て ・( ))
	寸法         間戸         棚板           - W900 x D350 ~ 450 x H500         ※2枚 · ( )         ※1股 · ( )           - #600 x D350 ~ 450 x H500         ※2枚 · ( )         ※1股 · ( )		- 金銭 表 新規 - 金銭 表 新規 - 金銭 表 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			M + H m M c - M m + H m m m m m m m m m m m m m m m m m		14 圣妮朱王舠仍检丁	・図示による(構造関係共通図 (配防標準図) 5.1(c)による(・全て ・( )) ・図示による(構造関係共通図 (配防標準図) 5.1(c)による(・全て ・( ))
			※1種 - 2種     鉄銅面     ※8種 - ※8			呼び名( ) 継手位置 ・図示による( )		15 既存構造物との	・図示による( ) 割裂補強筋 [8.19.6] [8.20.7] [8.24.10] [8.24.5]
48 水切棚	※既製品 ステンレス製一般型 ・ ( )		- クリヤラッカー差り(CL) - フタル酸樹脂エナメル差り(FE)			・重ね継手 - 節位 ( )		取合い	種類
49 屋内揭示板	種類 取付方法		- アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(IAD) ※移種 - A種 ※移種 - A種 ●耐鉄性塗料塗り(DP) 鉄網面 上塗り等級 ( ) 級 - A種 			呼び名( ) 継手位置 ・図示による( )			(丸鋼)     ・
	- t'ン、マグキット併用 900×1800 -		上金り等級 ( ) 級 32/95-1面及び押出成形を5/21板面 -						(異形鉄筋) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
50 銅製書架及び物品棚	種類   規格等		- つや有合成樹脂エマルション ユクタリー/歯等 ※8種 - ※8種 - A種 屋内の木部 ※8種 · ※4種 屋内の飲鋼面 ※8種 · ※4種 - A種		4 鉄筋の定着の長さ	鉄筋の定着長さ ・図示による (精連関係共通図 (配筋が平図) 3.1(b)) ・図示による (	8.3.4]		- はしご筋 - 鉄筋コゾクリート用棒鋼 - SD295A - D10 壁面内方向筋 - 図示 - ( ) と
	- 病薬物品棚 病薬物品棚		屋内の亜鉛めっき鋼面     ※B種 ・ ・ ※B種 ・ ・ ・ ※B種 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・						
51 洗面カウンター	材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り(心材:集成材) ・人工大理石 奥行き(mm) ・約月50 ・約600		- 合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)     ※移種 ・ A種       ・ウレタン樹脂ワニス塗り(UE)     ※移種 ・ A種       ・ラッカーエナメル塗り(LE)     ※移種 ・ A種		5 鉄筋かぶり厚さ 及び間隔 (溶接金網を含む)	最かかぶり厚さ(目地底から東出堂行う) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 表4.1) ・図示による (	8.3.5]		
			・オイルステイン塗り(0S)     -       ・木材保護塗料塗り(MP)     ※8種 ・A種 ※8種 ・A種			. /		16 既存部分の処理	既存コンクリートの目光らしの程度 ・既存柱、梁面 打練ぎ面の15~30%程度
52 防煙垂れ壁	- 固定式 材 類 厚さ (mm) 高さ (mm) 備 考 ※網入別報板が方ス ※6.8 ※500 アルミ製料付き		つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、ブラスター面、 せっこうボード面、その他ボード面)の塗着えの場合のしみ止め			柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・無し ・有り 適正箇所()			・ 既存壁 / 打棚ぎ面の 10~15 % 程度 ・
	<u>・線入り磨板 # ラス</u> ・ ・ ・		※改修標準仕様書7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする 合成機能エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め			最小かぶり厚★ ・鉄筋径の1.5倍以上			販存コンク √ートの目荒らし範囲 [8.19.3] [8.20.3] (8.20.3] ・平均調/さ 2~5mm (最大7mm)程度の凹面を、全体にわたってつける
	- 可動式   描 類 材 質 高さ (mm) 備 考   ・ 重直降作式 ※不然布 ※500 ガイドレール		※改修標準仕様書7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする・ ・高日射反射塗料塗り			耐久性上不利な多分(塩書等を受けるおそれのある部分等) ・無し			・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事における既存構造体と増設壁との取合いの処理方法 [8.19.8]
	(巻頭り型) (不燃設定品) - 800 ※固定式(整理込型) - 可数式(天井収納型) ・ 可数式(天井収納型) ※500 表面仕上げ		下地調整 (改修標準仕様書表7.2.2) ・R A 種 ・R B 種 ・R C 種			・有り / 適用箇所( 図示/構造関係共通図(配筋標準図) 4.1)に加える厚さ()nmn)			・原示による( ) ・放修商準仕権書8.19.9(1)~(9)による
	- 800 ※天井村張り		整料差り JISK 5675 反射率差料 2級 ・1級 塗料製造所の仕様による ・1級 ・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・2級・			鉄筋相写のあき(特殊な鉄筋を除く) ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)4.1)	8.3.5]		<b>着設理工事後の仕上げ</b> [8.19.10]
	為下機構 煙感知器運動及び手動開放装置(埋込型)		. 3 @			- 図素による ( ) ) ·		/	・ 図示による( ) .
53 表示	衝突防止表示   ※図示(市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・ )	5 フッ素樹脂塗装	打放しコンクリート面保護工法		6 機械式継手	使用箇所 ・ 図示による ( )	8-2	使用骨材による /	普通コンクリートの設計基準強度     (8.1.4)       設計基準強度 (M/mm²)     適用箇所
	(・両面 ・片面) ・無し 表示標識 案内用図記号についてはJIS Z 8210による。		(下塗材) 水性 浸透性吸水防止材 (上塗材) ・水性フッ素樹脂クリアー ・水性フッ素樹脂カラークリアー		/	/ · A級 ·	8.4.2] 耐震	種類及び強度	· 21 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	誘導標識、非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は共通詳細図による。					鉄筋相互のあき ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 4.1) ・ ( )	8.3.5] 改修		スランプの値(単位:cm) [8.1.4]
54 仕上塗材仕上げ	建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒロ放散量 ※規制対象外	6 燒付塗装	# 集材   焼付種別   仕上げ   コード   ベーク   部位   ・アルミニウム ・フッ素樹脂 ・ソリッド			・図示による ( ) ・	8.4.2] 事	2 レディーミクスト	- 18 種別 (8.1.3) (表8.1.1)
	世上塗材の種類		- ウレタン機能 - メタリック - アクリル機能 - ステンレス - フッ素機能 - ソリッド			・関示による ( )・	コンク	1 ,	※1類 · I類
	一		- ヘップレス - ・フッカの端 - ・ブリッド - ・メタリック - ・アクリル樹脂 - ・アクリル樹脂		7 溶接継手	使用箇所 ・國示による( ) ・		3 構造体強度補正値	打設日の日平均気温の平年値が2.5℃以下の場合 打込みから材齢28日までの予想平均気温による補正値 ※表6.3.2による ・3N
	仕上塗材 ・こて塗用軽量塗材 ・ ・平たん状		- 亜鉛めっき鋼板 ・フッ素樹脂 ・ソリッド ・ウレタン樹脂 ・メタリック ・アクリル樹脂			· A級 ·	8.4.3] ト エ 8.4.3] 事	/	打設日の日平均気温の平年値が 2.5 ℃を超える場合 (6.12.2) 暑中における補正値 ※3N ・6N
			1.7.7.7.0000		/	鉄筋相互のあき ・図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 4.1) ・( )	8.3.5]	/	適用部位 補正値 ・基礎
						・図示による ( )	8.4.3] 8.4.3]		+ 3 N - 躯体 補正値 - + 6 N -
						・ 図示による ( ) ・			
						·		· 滑 石	コープ は 15 4 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
<u> </u>			290401					改修	多工事特記仕様書(その7) 平成29年版 A-0/

8-2 4 セメント	種類 ・普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	[8.2.5] [表8.2.3]	15 コンクリートの 打込み工法等	鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フーブ巻き工法での型枠等 柱頭柱脚の腕間部間の型枠	8-3	8 溶接材料	溶接材料 ・改修標準性核書 8.2.10(a)(b)による	[8.2.70] 8-3	3 20 溶接部の試験	浸透探傷試験又は磁粉探傷試験 [8.15.11] ※行う
震改修	普通ポルトランドセメントの品質は、 JIS R 5210 に示された規定の他、 水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする 施工箇所 ()		(統き)	・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示による( )	耐震改		- 改修標準仕帳書 8.2.10(a) (b) 以外の溶接材料 材料 なび使用箇所 - 図示による ( )	村震改		適用部位 ※割れの疑いのある表面欠損 ・行わない
事	・高炉セメントB種 [G 施工箇所 ( )			が存在外層部あと打ちコンクリート又はモルタル厚さ ・図示による( ・	修 工 事	9 ターンパックル	<b>種類</b> 建築用ターンパックル胴	修 (7.2.6) 本		完全溶込み部の超音波提傷試験 ・行わない ※行う
コンク	・フライアッシュセメントB種 G 施工箇所 ( )		0 2 1 鉄骨制作工場		鉄 骨		割砕式・割砕式・	鉄		・ 工場溶接の場合 ※全数検査 ・計数調整型抜取検査
リ   5 骨材	砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A B	[8.2.5]	耐	※建築基本法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (接)日本統骨評価センター及び(株)全国統骨評価機構(旧(社)全国機構工業協会)の 「統骨制作工場の性能評価基準」に定める( )グレードとして国土交通大臣から	<b>7</b>   ゴ 事		・羽子板ポルト・・	(7.2.6) 二事		A00L(%) ・4.0 ・2.5 節 ・全て ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
事	☆石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B	/	震 改 修	認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督観賞の承諾する工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)	( 続 き)	10 デッキプレート	・図示による( ) ·	(続き)		・工場現場溶接の場合 ※全数検査
(続き) 6 混和材料	· 混和剤 混和剤の種類	<b>I</b>	工 2 施工管理技術者 事	・適用する (7人4) [8.1.5] ・適用しない			適用箇所 材質・形状・寸法 備考 ・デッキブレート 単独の構法			·計數連終生産型抜取検査 A00L(%) (-4.0 -2.5)
	※改修標準仕様書 8. 2. 5 (d) (1) による ・混和材	[8.2.5]	鉄 3 銅材 骨 工	材質等	<u>n</u> -		・デッキブレートと コンクリートとの合成 スラブとする構法			突き合わせ継手の食い違い仕口のずれ検査 「突き合わせ継手の食い違い仕口のずれ検査・マニュアル(建築研究所整体)」 による
	混和材の種類 ※改修標準仕様書 8.2.5 (d) (2) による		事	※図示( )による   ※JISによる ・大臣應定による	- - -		・床型枠用			・抜き取り終査① ※抜き取り終査②
7 気乾単位容積質量	普通コンクリート ※2.3t/m <sup>2</sup> 程度	(6.2.3) (6.10.1)		有効細長比(圧縮剤に限る) ※図示( )による ・	-		/	(7. 7. 8)	21 錆止め塗装	塗料の種別 ・鉄鋼面の舗止め塗料 屋外
8 無筋コンクリート	適用箇所	[8.11.1]	4 高カポルト	ポルトの区分 ※トルシア形高カポルト	9]		・図示による( ) ・ 依骨部材への溶接方法			・改修標準仕様書7.3.2 表7.3.1 A 種 ・ 屋内
	- 標準性接着 6.14.1(e) による箇所 - 標準性接着 6.14.1(e) 以外の箇所 - 図示による ( )			セットの種類 ・2種 (\$10T) ・			・図示による( ) ・ 耐火器定			・ 改修標準仕様書7.3.2 表7.3.1( )種 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	コンクリートの種類 ・普通コンクリート	[8.2.5]		- JIS杉高カポルト セットの種類 - 2種 (FIOT)			有り 無し 耐火時間 ・図示による( )			・改修標準仕様書7.3.2 表7.3.2() ) 理 ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) ・改修標準仕様書7.3.2 表7.3.1 4種
	設計基準強度 ※18W/mm <sup>2</sup>	[8.11.1]		高力ポルトの径 ・図示による( ) ・		11 スタッド	材質、形状及び寸法 ※顕付きスタッド JIS B 1198			耐火被覆材の接着する面への塗装 ・行わない
	スランブ ※15cm又は18cm ・	[8.11.1]		ボルトの経婚距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1縁端E/種及びボルト間隔) ・	.2]		呼び名等        呼び名     呼び長さ(mm)       ・16     適用箇所			・行う 適用箇所 ・図示による ( )
	混和材料 ・改修標準仕様書 8.2.5(d) による			すべり係数試験 [8.14.1 ※行わない	.2]		19 22			塗料の種別 ・ 改修標準仕稼奮7.3.2 ★7.3.1( )種 ・ 改修標準仕稼奮7.3.2 ★7.3.2( )種
9 流動化 コンクリート	適用箇所・図示による(	(6.15.1)		・行う 試験方法等 ・図示による( ) /・		12 柱底均しモルタル	※無収縮モルタル	[8.2.11]	22 耐火被覆	耐火被覆の仕様 [8.18.2~7]
10 ひび割れ誘発目地 打継目地	目地寸法 ・標準仕様書 9.7.3による ・/図示による ( )	(6. 6. 3) (6. 8. 2) (9. 7. 3)	5 普通ボルト	ボルト及びナットの材料 ・標準性検書 表7.2.3 (JIS附属書品)/による	.3)		無収縮モルタル材料及び調合 <b>有</b> ・改修標準仕様書 8.2.11 (4) (1) から (4) による			・ 建築基準法能行令第 107条の規定による要求性能を有するもの ・ 担別  ・ 種別  ・ 種別  ・ 技術・工法  ・ 技術・工法  ・ 技術・研究・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
11 40. 54 40	間隔、位産、形状・図示による( )・			・標準性接着 表7.2.3 (JIS附属書品) スは JIS本体規格品 (ISO規格) による (JIS本体規格品による場合は、ポルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ネジ六角ボルト、 強度区分を4.6又は4.8の類製と V、ナットの種類を六角ナット C の類製とする		13 工作図	監督職員による原寸検査 ・行わない ・行う 増築工事等を含め、既存貸集物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、作成を行う	[8.13.2]		・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・単式ロックウール ・湿式ロックウール
	※ひび割れ誘発目地、打機関地の深さ寸法は、打ち増し厚さ部で処理する			なお、呼び径六角ボルトの軸栓の最大寸法はボルトの径以下とする) 産金 (1.2.1	.3)	14 鉄骨の製作精度		[8.12.2]		・耐火板張り・繊維混入けい酸カルシウム板・・
11 コンクリートの 仕上り	・改修標準仕様書 表8 / 2による ・合板せき板を用いるロンクリート打放し仕上げ	[8.1.4] [8.2.7]		・標準仕様書 7.2.3(d)による ・ ボルトの径 (7.2.3	.3)		- H122連告示1464列第二号イ (1) (2) のただし書きによる補強は 「突き合わせ維年の食い違い仕口のずれの検査・マニュアル」による			- 耐火材を付け /高断熱ロックウール /
12 打増し厚さ	※コンクリートの打放し仕上げ種別及び適用箇所は図示による ・打放し仕上げ(仕上学杯、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し	[8.7.8]		・図示による( ) ・ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (8.13: ・ 図示による(構造関係共通図 (数骨標準図) 1-1線端距離及びボルト間隔)		15 鉄骨の仮組	・行わない ・行う (仮組を行) 範囲 ・図写による( ) ・	8.13.10]		モルタル塗り/ 材料及び工法は 遊楽基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする
(打放し仕上げ部)	・11放しまり(東上全材、全装等のは上りを行う動かを含む)の打場し 厚さ(外部に置する部分に限る) - 20cm	[0.1:0]	6 溶融亜鉛めっき	・図ホによる(物定 B) (数 〒 物 年 図 ) 1 - 1 移 地 起 程 及 ひ ホル ト 同 雨 ) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	91	16 溶接技能者の		[8.15.3]	23 建方精度	建方等の工事現場施工の程度 - JASS6 前 6 [鉄骨制度検査基準]付削5 [工事現場]による
	・打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し 厚さ(内掌に面する部分に限る) ・		高力ポルト	・1種 (F81相当)  溶融亜鉛めっき カポルトの径 ・図示による(		技量付加試験	· Bartisa ( ) ·		24 アンカーボルト等 の設置	遊方用/7ンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 ・A種 ・B種 ・C種
	外壁タ√ル張りで、MCR工法又は目荒らし (高圧水洗)工法を行う場合は 外部側上 20mmの増打ちを行う			溶融亜鉛め グを高力ポルトのめっき後の孔径 ※審査 (劉定又は大臣認定) を受けた内容による ・		17 溶接接合	開業の形状 ・図示による( ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1−2)	[8.15.4]		構造用アンカーフレームの形状及び寸法 種別 ・図示による ( )
13 型枠	せき板の材料及び厚さ ・合版 ※12mm ・ ) G (但し、グリーン購入法基本基本方針における	[8.2.7]		ボルト 解婚距離、ボルト関係、ゲージ等 ・関示による(構造関係共通図(鉄青標率図) 1-1線端距離及びボルト関係)	.2]	,	√ ・図示による ( )	[8.15.7]		住底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
	「合板型枠」の備考3の表示のある合板型枠を用いる場合に限る) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	[8.2.7]		摩維面の処理 - ブラスト処理(表面相度50μmRz以上) - ブラスト処対の特別な処理方法	.4)		- 図示による (構造関係共通図 (鉄青標準図) 1-4) エンドタブの切除する部分	[8.15.7]	25 軽量形銅構造	/ ※A種 モルタル厚さ ( ) ・B種 モルタル厚さ ( ) 接合部 (ポルト接合の場合) (7.11.2)
	・行う 適用箇所	[8.2.7]		図示による ( ) ・			・全て ・見え掛り節となる部分 図示による( ) ・見え振り節となる部分 図示による( )			・普通ボルト接合・ 母屋、胴縁類の取り付けを普通ボルトで行う場合の二重ナット ・行う ・行わない
	スリーブの村種・規格等 ・改修標準仕様書 8.2.7 (f) (2) 及び表 8.2.6による	[8.2.7] [表8.2.6]		試験方法等 - 「高カボルト接合設計施工ガイドブック(日本建築学会)」による			・切除する部分なし	(7. 6. 7)	26 溶融亜鉛めっき	種別等 [8.20.1] [表5.20.1]
14 コンクリートの 単位水量利定	実施要領 ・図示による(構造関係共通図(構造関係共通事項)構-4.1コンクリートの単位水登3	則定による)	7 アンカーボルト	適用 (7.2.4)(表7.2.3)(7.10.  ・構造用アンカーボルト  ・ABR400 セットの種類 (JIS B 1220)		18 現場溶接の有無	・無し ***		(構造費カ上 主要な部分)	亜鉛めっきの種別 材料 備考 A種 最小板厚 6.0mm以上の形鋼、鋼板 B種 最小板厚 3.2mm以上の形鋼、6.0mm未満の形鋼、鋼板
15 コンタリートの 打選み工法等	部位毎のコンクリートの打殺工法の指定 補強工法 打殺工法 都位	[8.21.8] [8.23.5]		・ABR490 セットの種類(JIS B 1220) ・SNR4008 アンカーボルト及びナットの公差域クラス及び仕上げの程度 ・標準性様書 表7.2.3による 形状、寸法			・有り 適用箇所 ・國示による( )			C種 蓄通ポルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板 素地ごしらえは、JISH 8641による 適用箇所
	・現場打ちコンクリート壁 ・工法指定なし ・全ての増設壁 ・図示 ( ・選込み工法 ・全ての増設壁 ・図示 ( ・正入工法 ・全ての増設壁 ・図示 (	)による )による )による		・ 図示による( )・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		19 入熱、パス間温度 の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・図示による( ・図示による(執道関係共通図 (鉄骨標準図) 1-4)			※図示による( )
	・ ・ 図示 ( )による ・ 鉄筋コンクリート柱の ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ( ) 流込み工法 ・ 全ての増設壁 ・ 図示 (	)による )による		材質 ・SS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度			通用箇所		27 鉄骨ブレースの 仕上げ	・図示による( ) [8.22.8]
	溶接閉鎖フーブ巻き工法   ・圧入工法 ・全ての増設壁 ・図示( ・ 図示( ・ 図示( )による	)による		・標準仕様書 表7.2.3による 形状、寸法 ・図示による( ) ・			・図示による( ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部			
	- 工法指定なし - 液込み工法 - 圧入工法		/	ボルトの縁矯距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による ( ) [8.13.						□ T
<u>/</u>		/	'	29040	101				QX .	アーナ 17 印 山口 17 目 ((ひ))

8-4 1 あと施工アンカー	種類 [8.2.4]・金属系 セット方式 ・本体打込み式(・改良型 ・従来型) ・	8-6 1 適用範囲	連続機権補強工事 [8.37] ・連続シートを柱に巻き付けて補強する工法	2 既製コンクリート       8-8 杭地業	杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉ぞく形	(4.3.2) 8-8 3 鋼林地業 (統き)	林の現場継手 ・溶接継手
耐震改	アンカー本体の径     ・図示による( )・       及び埋込み深さ     引張割力       引張割力     ・図示による( )・       せん新削力     ・図示による( )・	耐 震 改 <sup>2 連続機権シート</sup>	・連続シートを梁に巻き付けて補強する工法 連続機能の材料 ・炭素機能 ・アラミド機能 ・ ( )	地 業 工	施工方法 ・打込み工法 (・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー) ブレボーリングの併用	(4.3)(~5) 地 業 工	形状 ・JIS A5525による。 溶接材料 ### ### ### ## # # # # ## ## ## ## ## #
修 工 事	せん断耐力 ・図示による ( )・ 接合筋の種類、 ・図示による ( )・ 径、長さ	修 工 事	・ 灰糸機種 ・ プラミト機種 ・ ( ) 連続機種の材質 [8.2.12] 引張強度(含浸硬化後)	事	・行う 掘削深さ及び径 ・ 関末による( )・	事(続	・標準仕様書7.2.5(a)(b)による。 ・図示による( ) ・編溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
あした	・接着系 セット方式 カブセル式 接着剤の品質 ・有機系 ・無機系 アンカー本体の径 ・図示による( )	連続	Timba	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・行わない 打込林権定支持力の算定 ・図示による( )・	) )	工法 ※評定等を受けた工法 検査
施	及び埋込み深さ 引張耐力 ・図示による( )・ せん断耐力 ・図示による( )・	繊維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維維	下地処理 [8.24.4]		林の精度 水平方向の位置ずれ 図示による - 林径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 図示による 1/100以内		※評定書により定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による。
カー	施工方式 ・ 回転打撃式又は監督職員の認める同等の施工方式・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	100   強   エ   事	・行う ・行わない 範囲 ・関京による ( 種類 ・改修標準仕様 8 . 24 . 7 (a) (2) による		・セメントミルクエ法 アースオーガの支持地盤への服削深さ	(4. 3. 4)	杭頭の処理   ・行う
事	種類、後、長さ あと施エアンカーの性能確認試験	7	・柱角隔部の面取り [8.24.4] 大きさ ・図示による( ) ・		・1.5m程度 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ ・1.0m程度 ・		処理方法(切断にともなう補強方法含む。) ・図示による( ) ・行わない
	・実施しない ・実施する 試験方法		連続機権強化材の引導機度試験 [8.24.4] ・行う 行わない 引張り強度試験		杭の精度 水平方向の位置ずれ 図示による ・杭径の1/4かつ100mmに 杭の傾斜 図示による 1/100以内		杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンウリートと同調合のもの
	・(一社)日本建築あと施エアンカー協会のあと施エアンカー標準試験法による ・ 試験対象のあと施エアンカー試験数		※JKS A 1191 (コンクリート用連続機権シートの引張り試験方法)による 試験数量		・特定埋込材工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で、	(4.3.5) 4 場所打ち	<b>- 桃径、長さ、仕様等</b> (4.5.2)
	・図示による(		・図示による( ) ・ 連続機構強化材の付着強度試験 [8.24.4]		α = 250を採用できる工法 図示による ( )・上記以外の特定埋込杭工法 図示による ( )	コンクリート杭 地業	・図示による( )・材料その他
2 あと施エアンカー の穿孔	穿孔前の既存鉄筋および埋設配管・配線等の保査 探査範囲 ※あと施エアンカー施工部分全て		・行う     ・行わない       試験数量     ・図示による( ) ・		工法 ・ ブレボーリング拡大根間の工法 ・ 中堀り拡大根間の工法		帯筋 図示による( )・ 鉄筋の最小かぶり厚さ ・図示による( )
	探査方法 ・鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う ・はつり出しによる	3 連続繊維補強後の 仕上げ	・図示による ( ) ・ [8.24.8]		・ ・ 使用する ・ 使用しない		セメントの種類 ・高炉セメントB種G ・ (4.5.3) (6.3.1)
	穿孔機械 ※ハンマードリル	8-7 1 スリットの方式 及び充填材	方向 タイプ 耐火性能 防水性能 備考		杭の精度 水平方向の位置ずれ - 図示による 林/性の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 - 図示による		コンクリートの種別 ・A種 ・B種 ・審査(認定又は大臣認定)された内容による
	・コアドリル(施工箇所 図示による( ))) 金属採知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する	耐震改	・垂直方向     ※完全     ・耐火型     ・有り       ・水平方向     (全資通型)     ・非耐火型     ・無し		· アーク溶接継手	(4.3.6) (7.2.5)	コンクリートの設計基準強度 ( )N/mm <sup>2</sup> (4.5.3~5)
3 施工確認試験	試験の適用 ※実施する(・シアコネクタは除く ・シアコネクタを含む)	放	目地         内壁         外壁           目地材         ・シーリング材         ・シーリング材		・標準仕様書4.3.6による 溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(a)(b)による - 概準仕様書7.2.5(a)(b)以外( )		構造体強度補正値 (S) ・3H/mm <sup>2</sup> ・審査 (認定又は大臣認定) された内容による
	試験方法 引强試験 権認強度	耐電	(見え掛かりのみ) (見え掛かりのみ) (見え掛かりのみ) (・シーリング材 (内外とも) - 20×10 - 20×1		・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※審査(認定又は大臣認定)を受けた工法		振削工法 (4.5.1)(4.5.4、5) アースドリル工法 安定液 ・使用する ・使用しない
	情認強後 ・ 図示による( ) ) ・ ・ 実施しない	スリ	(機能加 X 深 さ mm)   100 × 10		検査 ※審査 (認定又は大臣 記定)により定められた項目 ・ 施工 ※審査 (認定又は大臣認定)された施工管理基準による		・リバース工法 ・オールケーシング工法 ・れ内の水張り ・行う ・行わない
4 シアコネクタ	種類	ト 新 2 スリットの施工 弘	既存拠之部の配管等の検査 鉄筋探査機(金属探知機)による探査し、鉄筋、配管類の位置に豊出しを行う			(4.3.7)	併用する工法 ・場所打ち顕管コンクリート/杭工法 ・図示による()
(現場打ちコンクリ/ト 壁の打増し廊に 用いるシアスキクタ)	・金属系あと施エアンカー (従来型)の異形差筋アンカー ・接着系あと施エアンカー	事	・はつりだしによる スリットの幅及び深さ [8.25.2]		・行う 処理方法 (切断に伴う 補強方法を含む) ・ 図示による (		鋼管巻き材料 SK/4400 ・SKK490 ・ ・拡度材工法 ・図示けよる( 安定液 使用す/6 ・使用しない
	径 ・D10 ・D13 ・		・図示による( )・		桃頭の中語材料 ※基礎のコンクリートと同調合のもの ・行わない	(4. 3. 7)	試験杭 試験杭の施工 ※ 本核の施工に先立ち行う ・
	既存型への有効理の込み長さ ・4d(d:シアコネクタの呼び径) (理め込み深さ=5d)	8-8 1 支持地盤	桃基礎 支持地盤の種類及び位置(基礎杭の先端の位置含む) ・ 関系による( ) ・	3 銅杭地楽	種類の記号 - SKK400 - SKK490 -	(4. 4. 2)	試験就の位置、本類 ※最初の一本 ・図示による( ) 孔壁測定 ・行う (4.5.4.5)
	増打ち壁への有効定者長(mn) ・増打ち壁厚さー40mm 間隔(mm)	業工工	直接基礎 支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む)			(4.2.2) (4.4.2) 備 考	瀬定方法   測定箇所は図示による( )   行わない
	- 500 × 500	7	・関示による()・ 長期設計支持力度		試験杭 中杭 下杭		状の精度 水平方角の位置ずれ ・図示による ・100mm以下 ・ 株の賃料 ・図示による ・1/100以内 ・
8-5 1 モルタル及び グラウト材 耐	構造体用モルタル 圧縮強度 ( ) N/mm2 フロー値 ( ) mm	í	・( ) kN/m <sup>2</sup> ・ 試験堀り(根切り底)による支持地盤の確認 (3.2.1)		本材中杭	5 地盤改良 (セメント系園化材	
震 改 修	材料及び調合 - 改修標準仕様書8.2.6(1)による - 改修標準仕様書8.2.6(2)及び(3)による		・行う 位置等 ・図示による( ) ・ ・行わない			を用いた工法によ よる改良)	適用範囲、仕様及び計測、試験は図示による( 長期設計支持力 ・( ) k和/m²・
事	柱底均しモルタル ※無収ೆ モルタル ・	11	地盤の載荷試験 ・行う 試験の位置、方法等は図示による		対験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ・ 試験杭の位置、本数 ※最初の一本 ・図示による ( )		・深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は図示による( 長期設計支持カ
クラウ	グラウト材 ※無収縮グラウト材 ・	2 既製コンクリート	・行わない 種類 (4.3.2)		杭先端部形状   ・開放形 ・閉ぞく形 ・	(4.4.2) 6 置換コンクリー 🗸	/
事	無収縮グラウト材の材質等 混和剤 セメント系 (酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を	- 杭地業	<ul><li>- 遠心力高強度プレストレストコンプリート杭 (PHC杭)</li><li>- 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)</li><li>SC杭の鋼管材料 - SKK490</li><li>- SKK490</li></ul>		先端部の補強 標準仕様書 図4.4.1、表4.4.2による。	地業 (ラップル オン クリート地業)	※圏示による( 長期設計支持力 ( )kN/= <sup>2</sup>
	使用するもの)とする セメント JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントと する	-	・プレストレスト鉄筋コングリート杭 (PRG杭)		先端部の補強(補強パンド等)及びその他付属品の材質 ・SS400と同等又はそれ以上		セメントの種類 ・高炉セメントB種G
	砂 土木学会コンクリー 標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精遊されたもの を絶対乾燥状態が使用する ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない	_	試験艦 ・行う 孔野はオーガ径とする 位置及び長さは固示による( ) 対機縮の施工は試験机の施工に先立ち行う ・行わない		施工方法 ・特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=	(4.4.1) (4.3.5)	コンクリートの設計基準強度 ()N/mm² 構造体基準強度補正値(S)=()N/mm²
	無収縮グラウトの低質及び試験方法 コンステンシ Jフロートによる硫化時間 練混ぜ完てから3分以内 : 8±2秒	-	寸法 報手、性能等(種別:種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2)(4.3.2)		を採用できる工法 図示による () ・上記以外の特定埋込杭工法 図示による ()  エ法	7 表状化対策	工法 · ( ) 仕様、範囲、計測、試験等
	ブリージング 練選ぜ 2時間後のブリージング車 : 2.0%以下 凝結開始時間 : 1時間以上 終結時間 : 10時間以内		上杭   試験杭 中杭		・中堀り拡大根固め工法 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	8 砂利対策	・図示による ( ) 材料 (4.6.2)
	無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 25.0N/mm <sup>2</sup> 以上 材齢 28日 45.0N/mm <sup>2</sup> 以上		下核         上核           本核         中核		・水平方向の位置ずれ ・図示による ・杭径の1/4以下かつ100mm以下 ・杭の傾斜		※再生クラッシャラン区 ・切込砂利及び切込砕石 厚さ及び使用範囲 (4.6.3)
	塩化物量 0.30kg/m <sup>2</sup> 以下 試験方法 1)日本道路公団規格 (JHS) 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。 プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみとす。	-	下 核 上 核 中 核 下 核		- 図示による ・1/100以内 ・		厚さ   使用範囲
	る。 2)塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。	_	試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	,			可不第6公舎屋上防水・外壁改修工事 対修工事特記仕様書 (その9) 平成29年版 A-09
$\vee$ $\perp$		V	武数旬の世世、平敦				1 M = 0 T M







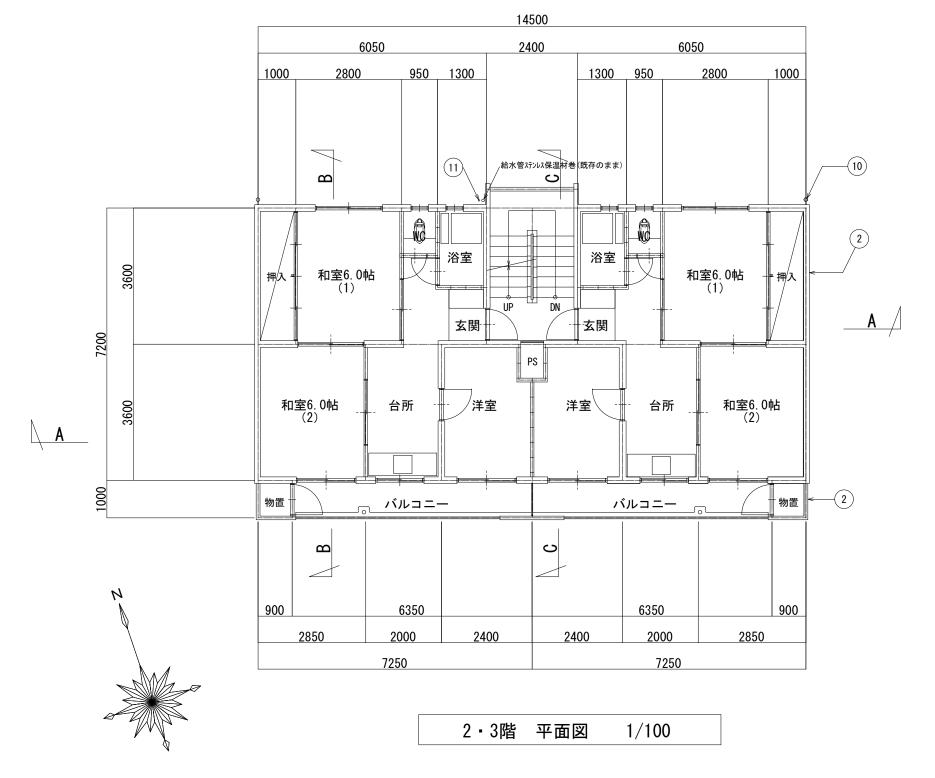
	外部仕上表							
符号	仕 上	げ		符 号	仕 上 げ			
	ᇀᆫᆘᆉᆉ	既存	既存加硫ゴム系シート防水(密着工法) 立上・溝部撤去・下地補修	7	手摺	既存	スチール製手摺撤去・撤去跡補修	
	屋上防水	改修	平場;塩ビシート防水 ア=1.5(S-M2)、立上;塩ビシート防水ア=2.0(S-F2)新設		<b>于</b> 指	改修	アルミ製手摺新設	
	外壁	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付	(8)	 隔板	既存	金物部∶SOP塗装	パネル部:VP塗装
(2)	71 笙	改修	高圧洗浄の上、建築用塗膜防水材(JIS A 6021)	•	阴节似	改修	金物部:下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)	n° 礼部: 下地調整 (RB種) の上、EP塗装
	巾木	既存	モルタル刷毛引き	(10)	竪樋 (VP100φ)	既存	VP100φ撤去(掴み金物共)	
(3)	III W	改修	既存のまま	(10)	$(VP100 \phi)$	改修	カラ-VP100φ新設(ステンレス掴み金物共)	
	犬走り	既存	モルタル金コテ	(11)	オーバ・フロー管	既存	VE塗装	
4	入足り	改修	既存のまま		$(VP40 \phi)$	改修	下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン	<u>系</u> )

※1 外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。

※2 吹付下地

建築用塗膜防水材: カチオン系フィラー 外装薄塗材E吹付 : セメント系フィラー

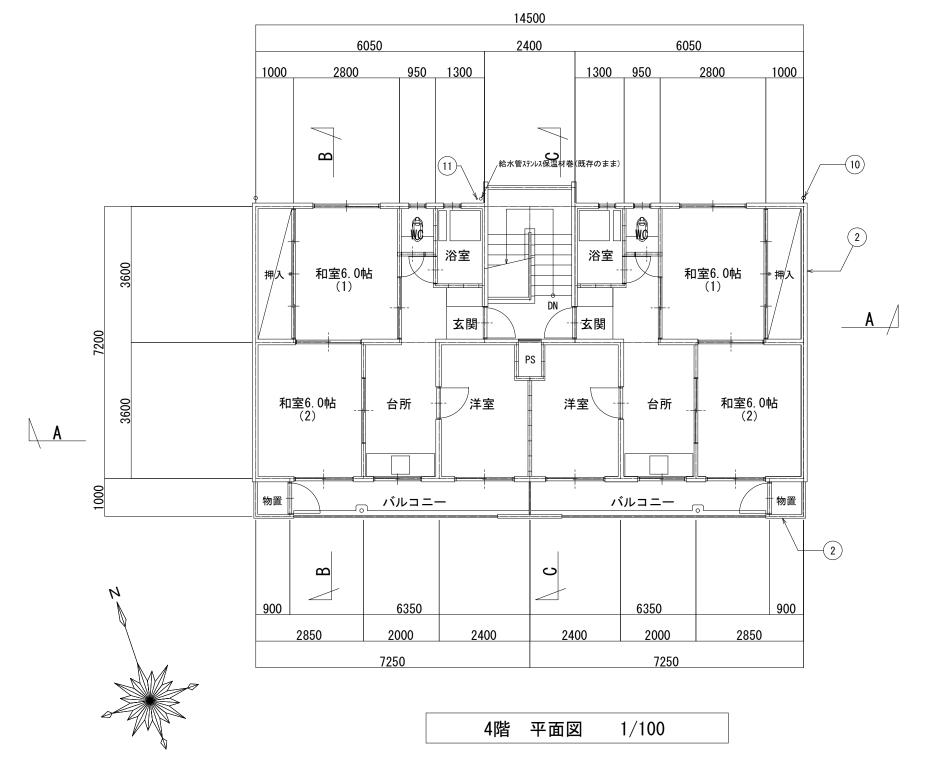
特	長崎県土木部	部建築課 課長 総括課長補佐 課長補佐	[ 係 長 <u>設計者</u> 縮尺 1/100	工事名 滑石第6公舎屋上防水·外壁改修工事	図面NO.
記		市江戸町2-13 FAX095-827-3367	日 付 H29. 8	図面名 1階平面図	A-12



	外部仕上表							
符号 仕上げ 符号 仕上げ								
	ᇀᆸᇠᆉ	既存	既存加硫ゴム系シート防水(密着工法) 立上・溝部撤去・下地補修	(7)	手摺	既存	スチール製手摺撤去・撤去跡補修	
	屋上防水	改修	平場;塩ビシート防水 ア=1.5(S-M2)、立上;塩ピシート防水ア=2.0(S-F2)新設		<b>十</b> 拍	改修	アルミ製手摺新設	
	外壁	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付	(8)	隔板	既存	金物部: SOP塗装 パール部: VP塗装	
(2)	27.至	改修	高圧洗浄の上、建築用塗膜防水材(JIS A 6021)	· ·	門的似	改修	金物部: 下地調整 (RB種) の上、DP塗装 (ポリウレタン系) パネル部: 下地調整 (RB種) の上、EP塗装	
	巾木	既存	モルタル刷毛引き	(10)	竪樋 (VP100φ)	既存	VP100φ撤去 (掴み金物共)	
(3)	111 /	改修	既存のまま	(10)	$(VP100 \phi)$	改修	カラ-VP100φ新設(ステンレス掴み金物共)	
	4411	既存	モルタル金コテ	(11)	オーハ゛ーフロー管	既存	VE塗装	
4	犬走り	改修	既存のまま	(11)	(VP40 φ)	改修	下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)	

- ※1 外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。
- ※2 吹付下地 建築用塗膜防水材:カチオン系フィラー 外装薄塗材E吹付:セメント系フィラー

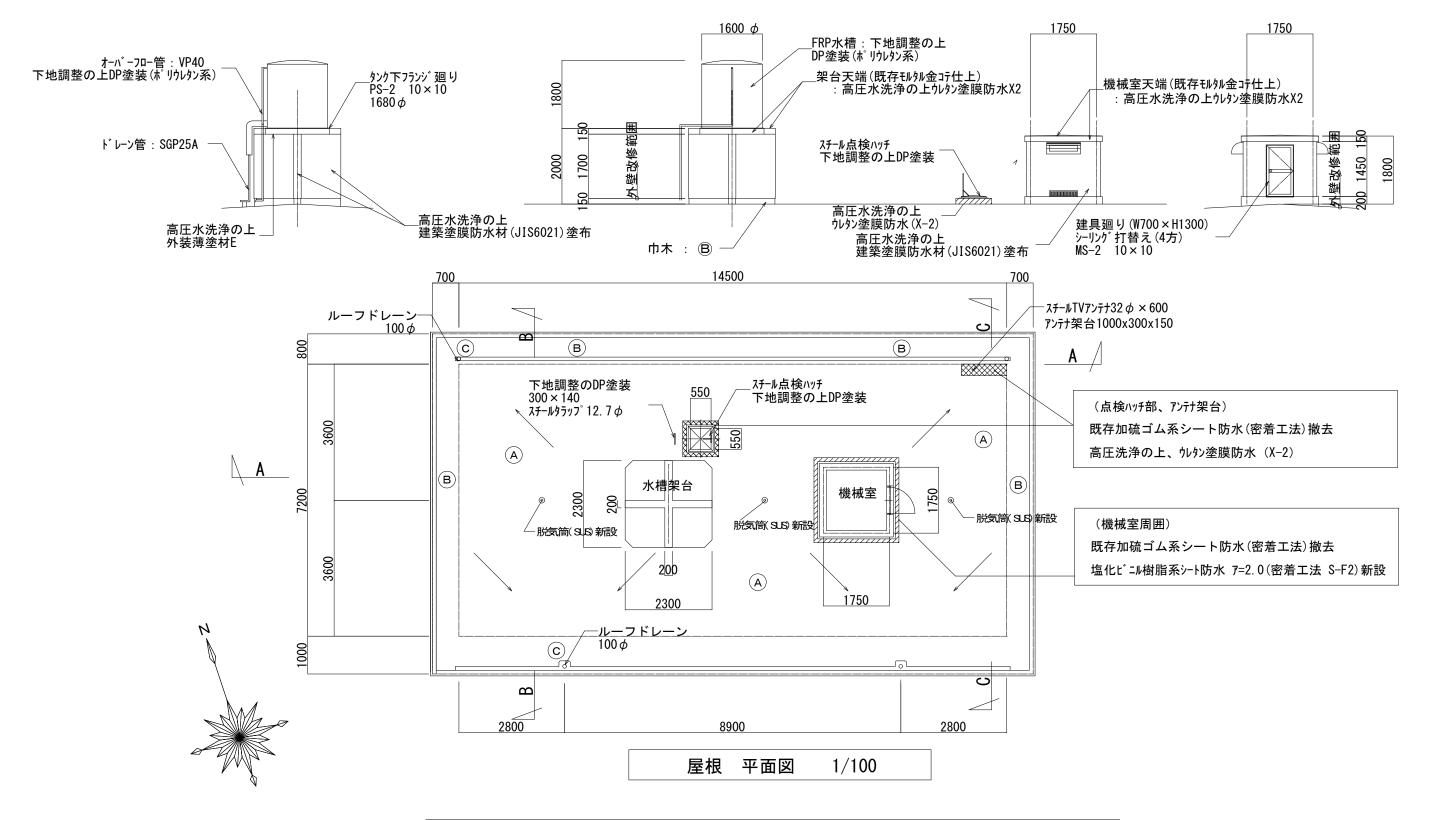
特		長崎県土木部建築課	課長	総括課長補佐	課長補佐	係 長 設	計者 縮尺 1/1	00 工事名	滑石第6公舎屋上防水・外壁改修工事	図面NO.
記	長崎県	〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL095-824-1111/FAX095-827-3367					日付 H29	. 8 図面名	2・3階平面図	A-13



	外部仕上表								
符号	・号 仕上げ			符号	仕上げ				
	1 = 1 = 1.		既存加硫ゴム系シート防水(密着工法) 立上・溝部撤去・下地補修		T 433	既存	スチール製手摺撤去・撤去跡補修		
	屋上防水	改修	平場;塩ビシート防水 ア=1.5(S-M2)、立上;塩ビシート防水ア=2.0(S-F2)新設	7	手摺	改修	アルミ製手摺新設		
	外壁	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付	(8)	隔板	既存	金物部∶SOP塗装	パネル部:VP塗装	
2	77至	改修	高圧洗浄の上、建築用塗膜防水材(JIS A 6021)			改修	金物部: 下地調整 (RB種) の上、DP塗装 (ポ リウレタン系)	パネル部:下地調整(RB種)の上、EP塗装	
(3)	巾木	既存	既存 モルタル刷毛引き	(10)	竪樋 (VP100 <i>o</i> )	既存	VP100φ撤去 (掴み金物共)		
	111 /	改修	既存のまま	10		改修	カラ-VP100φ新設(ステンレス掴み金物共)		
4)	犬走り	既存	モルタル金コテ	(11)	オーバーフロー管	既存	VE塗装		
4	入足り	改修	既存のまま		$(VP40\phi)$	改修	下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン	系)	

- ※1 外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。
- ※2 吹付下地 建築用塗膜防水材:カチオン系フィラー 外装薄塗材E吹付:セメント系フィラー

特	長崎県土木部建築課	課長	総括課長補佐課長補佐	係長	設計者	345   一丁	工事名	滑石第6公舎屋上防水・外壁改修工事	図面NO.
記	 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 EL095-824-1111/FAX095-827-3367					日付 H29.8	図面名	4 階平面図	A-14



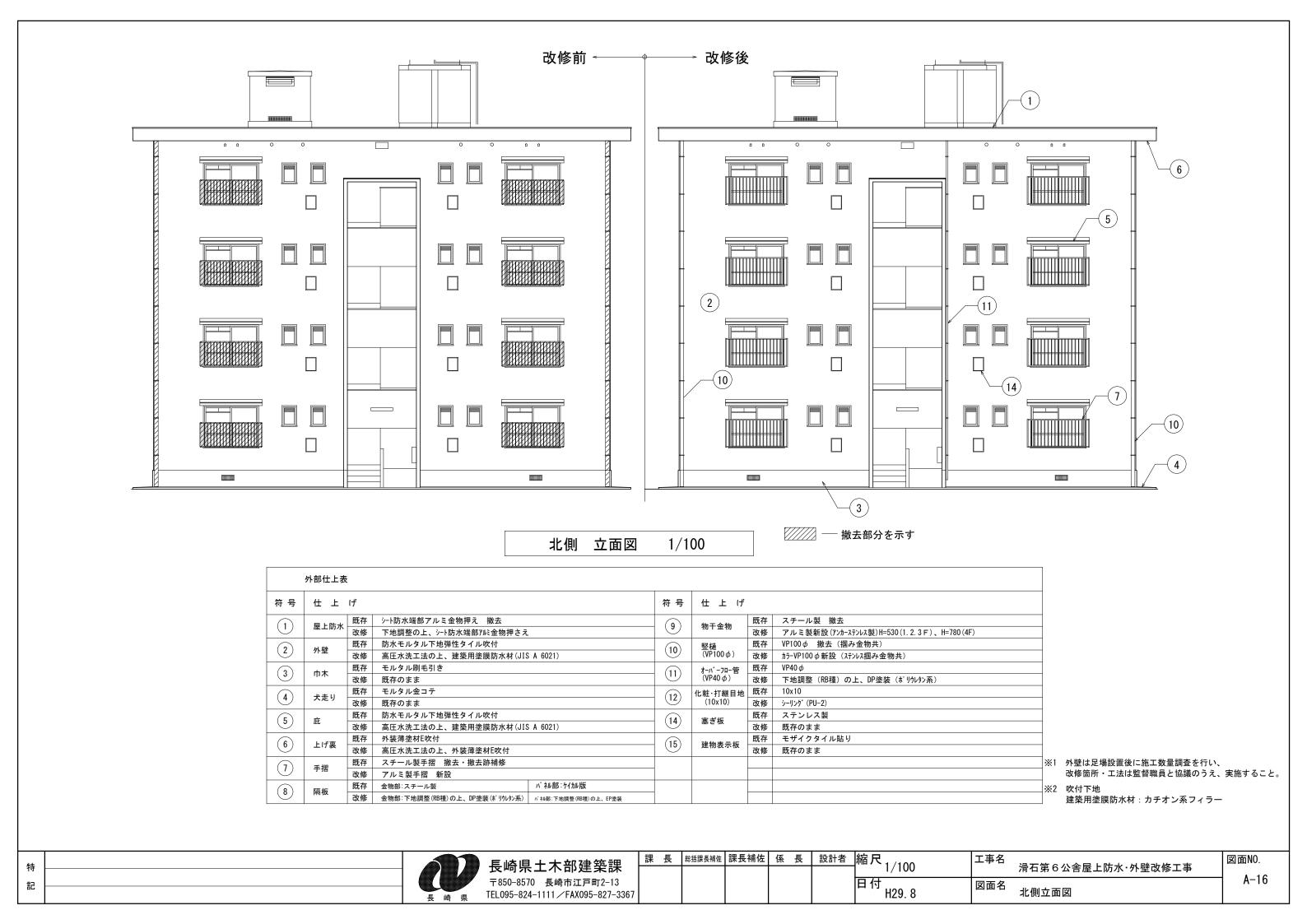
	防水改修仕上	共 通	凡 例
(A)	屋根 (平場部)	既存	既存加硫ゴム系シート防水(密着工法) 既存のまま
		改修	高圧水洗のうえ、塩化ビニル樹脂系シート防水 ア=1.5(機械的固定工法 S-M2)新設
	屋根 (立上り部)	既存	既存加硫ゴム系シート防水(密着工法)撤去
B		改修	高圧水洗のうえ、塩化ビニル樹脂系シート防水 ア=2.0(密着工法 S-F2)新設
			端末アルミ防水押え金物 30x15 及び シーリング (変成シリコーン系 MS-2) 10x10 新設
(c)	ドレン	既存	既存ドレン撤去
		改修	改修用ドレン (タテ φ 100) 新設(ストレーナーキャップ共)

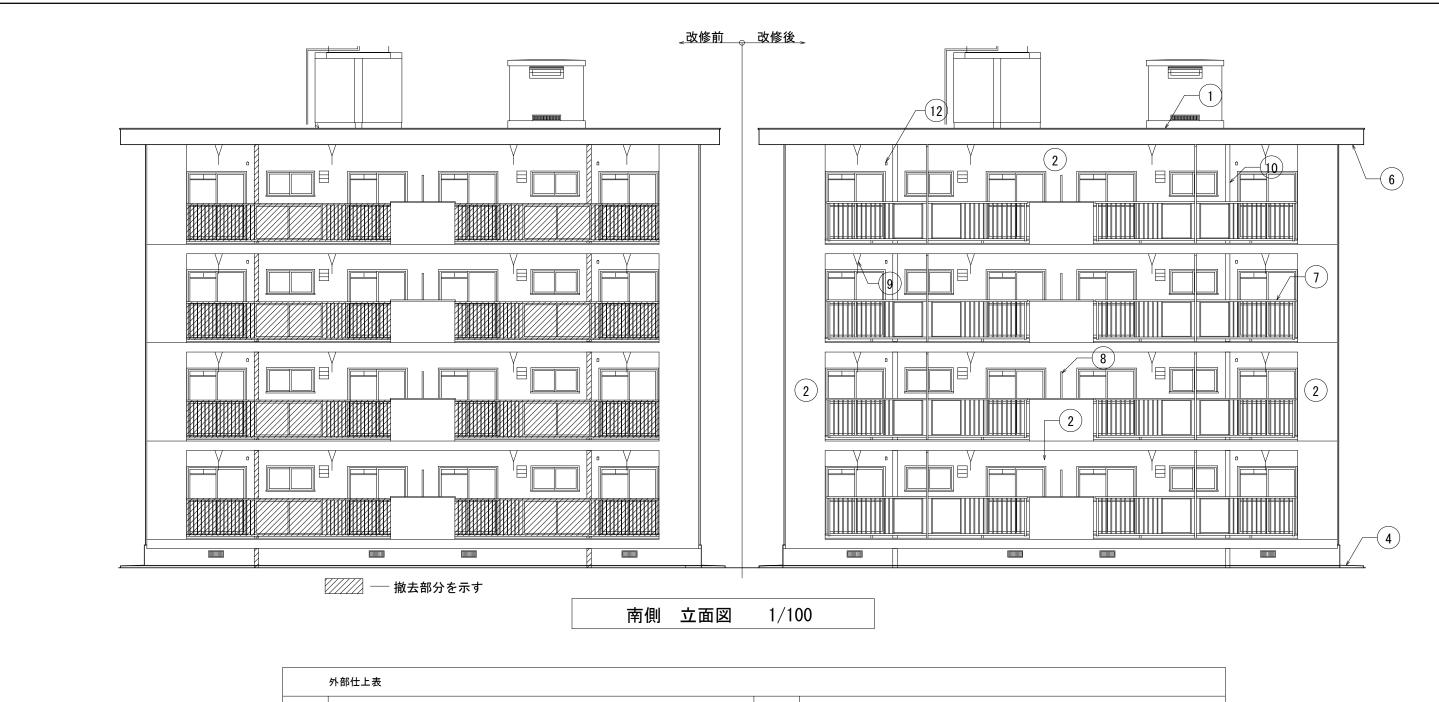
※1 外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。

※2 吹付下地

建築用塗膜防水材:カチオン系フィラー 外装薄塗材E吹付 :セメント系フィラー

特	長崎県土木部建築	課長総括課長補佐課長補佐	係長		工事名 滑石第6公舎屋上防水·外壁改修工事	図面NO.
記	〒850-8570 長崎市江戸町2-1 長崎県 TEL095-824-1111/FAX095-827	367		日付 H29.8	図面名 R階平面図	A-15





	外部仕上表								
符号 仕上げ		符号	仕上げ						
(1)	屋上防水	既存	シート防水端部アルミ金物押え 撤去			物干金物	既存	スチール製 撤去	
(1)	座工防小	改修	下地調整の上、シート防水端部アルミ金物押さえ		9	初丁並初	改修	アルミ製新設 (アンカーステンレス製)H=530(1.2.3 F)、H=780(4F)	
(2)	外壁	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付			竪桶	既存	VP100φ 撤去 (掴み金物共)	
(2)	77堂	改修	高圧水洗工法の上、建築用塗膜防水材(JIS	S A 6021)		10 竪樋 (VP100 φ)		カラ-VP100φ新設(ステンレス掴み金物共)	
$\bigcirc$	巾木	既存	モルタル刷毛引き	タル刷毛引き		オーバーフロー管	既存	VP40 φ	
(3)	1117	改修	既存のまま			(VP40 φ)	改修	下地調整 (RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)	
	<b>+</b> ±11	既存	モルタル金コテ		(12)	化粧·打継目地	既存	10x10	
<b>(4)</b>	犬走り	改修	既存のまま			(10x10)	改修	シーリンク <sup>*</sup> (PU-2)	
(5)	庇	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付 高圧水洗工法の上、建築用塗膜防水材(JIS A 6021)			塞ぎ板	既存	ステンレス製	
(3)	JEC .	改修					改修	既存のまま	
6	上げ裏	既存	外装薄塗材E吹付		(15)	7+1/2 = 二十二	既存	モザイクタイル貼り	
<b>(6)</b>	上リ表	改修	高圧水洗工法の上、外装薄塗材E吹付			建物表示板	改修	既存のまま	
(7)	手摺	既存	スチール製手摺 撤去・撤去跡補修						>
	<b>一</b> 拍	改修	アルミ製手摺 新設						
(8)	隔板	既存	金物部:スチール製	パネル部:ケイカル版					>
$\circ$	四分介义	改修	金物部:下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)	パネル部:下地調整(RB種)の上、EP塗装					

外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。 吹付下地

建築用塗膜防水材:カチオン系フィラー

長崎県 〒850-857 TEL095-824

特

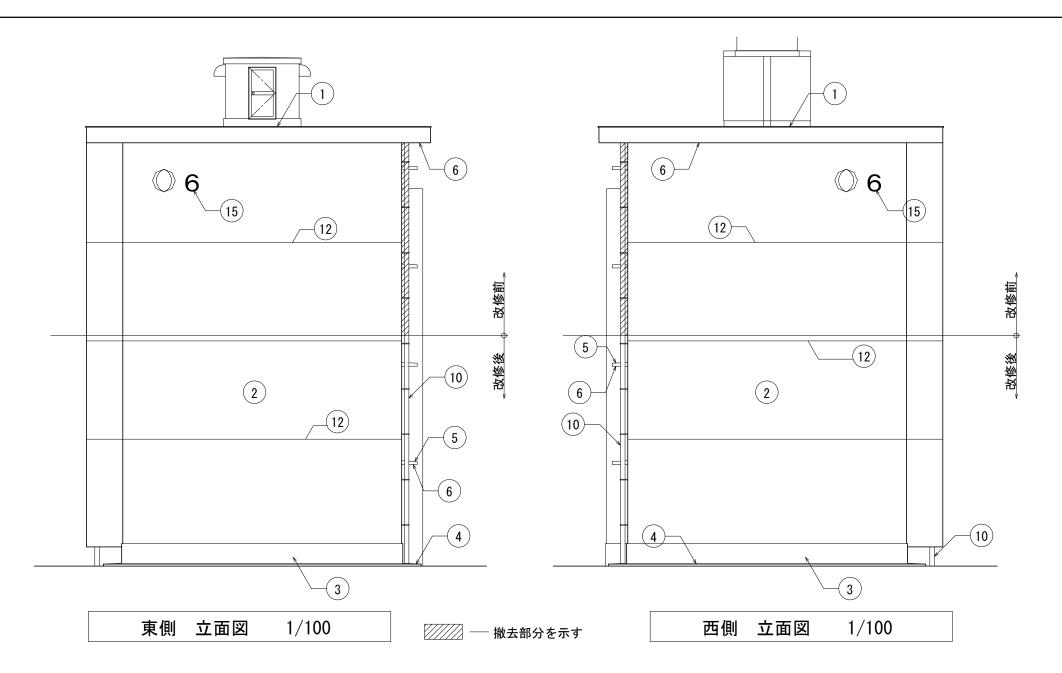
記

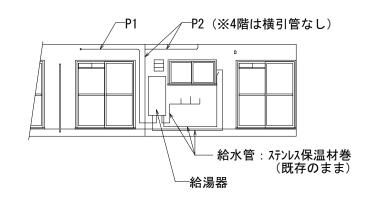
長崎県土木部建築課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL095-824-1111/FAX095-827-3367 
 課 長
 総括課長補佐
 課長補佐
 係 長
 設計者
 縮 尺
 1/100
 工事名
 滑石第6公舎屋上防水・外壁改修工事

 日付
 H29.8
 図面名
 南側立面図

A-17

図面NO.





## バルコニー配管類概略図 1/100

配管リスト(既存のまま)							
符号	名 称	材 質 呼び径	数量(m/戸)				
P1	給水管	SGP32 $\phi$	3. 70				
P2	排水管	VP50 φ	4. 20 (1~3階) 2. 70 (4階)				

	外部仕上表							
符号 仕上げ			符号	仕上げ	仕上げ			
	E L Dt = 1 既存		シート防水端部アルミ金物押え 撤去		9)	44 - 0 44	既存	スチール製 撤去
	屋上防水	改修	下地調整の上、シート防水端部アルミ金物押さえ	-		物干金物	改修	アルミ製新設 (アンカーステンレス製)H=530(1.2.3 F)、H=780(4F)
	外壁	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付		(10)	竪樋	既存	VP100φ 撤去(掴み金物共)
(2)	71堂	改修	高圧水洗工法の上、建築用塗膜防水材(JIS	S A 6021)		竪樋 (VP100 <i>o</i> )	改修	カラ-VP100φ新設(ステンレス掴み金物共)
(3)	巾木 既存 改修	既存	モルタル刷毛引き		(11)	オーバ・フロー管	既存	VP40 φ
		改修	既存のまま			(VP40 φ)	改修	下地調整 (RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)
<b>(4)</b>	犬走り	既存	モルタル金コテ			化粧·打継目地	既存	10x10
4	入足り	改修	既存のまま		(12)	(10x10)	改修	シーリング <sup>*</sup> (PU-2)
5	庇	既存	防水モルタル下地弾性タイル吹付		14	# *\t	既存	ステンレス製
	)EC	改修	高圧水洗工法の上、建築用塗膜防水材(JIS A 6021)		(14)	塞ぎ板	改修	既存のまま
(6)	上げ裏	既存	外装薄塗材E吹付			建物表示板	既存	モザイクタイル貼り
	エリ表	改修	高圧水洗工法の上、外装薄塗材E吹付		(15)	<b>建初衣小似</b>	改修	既存のまま
7)	7		存 スチール製手摺 撤去・撤去跡補修					
	手摺	改修	アルミ製手摺 新設					
(8)	隔板	既存	金物部:スチール製	パネル部:ケイカル版				
	門符化人	改修	金物部:下地調整(RB種)の上、DP塗装(ポリウレタン系)	パネル部:下地調整(RB種)の上、EP塗装				

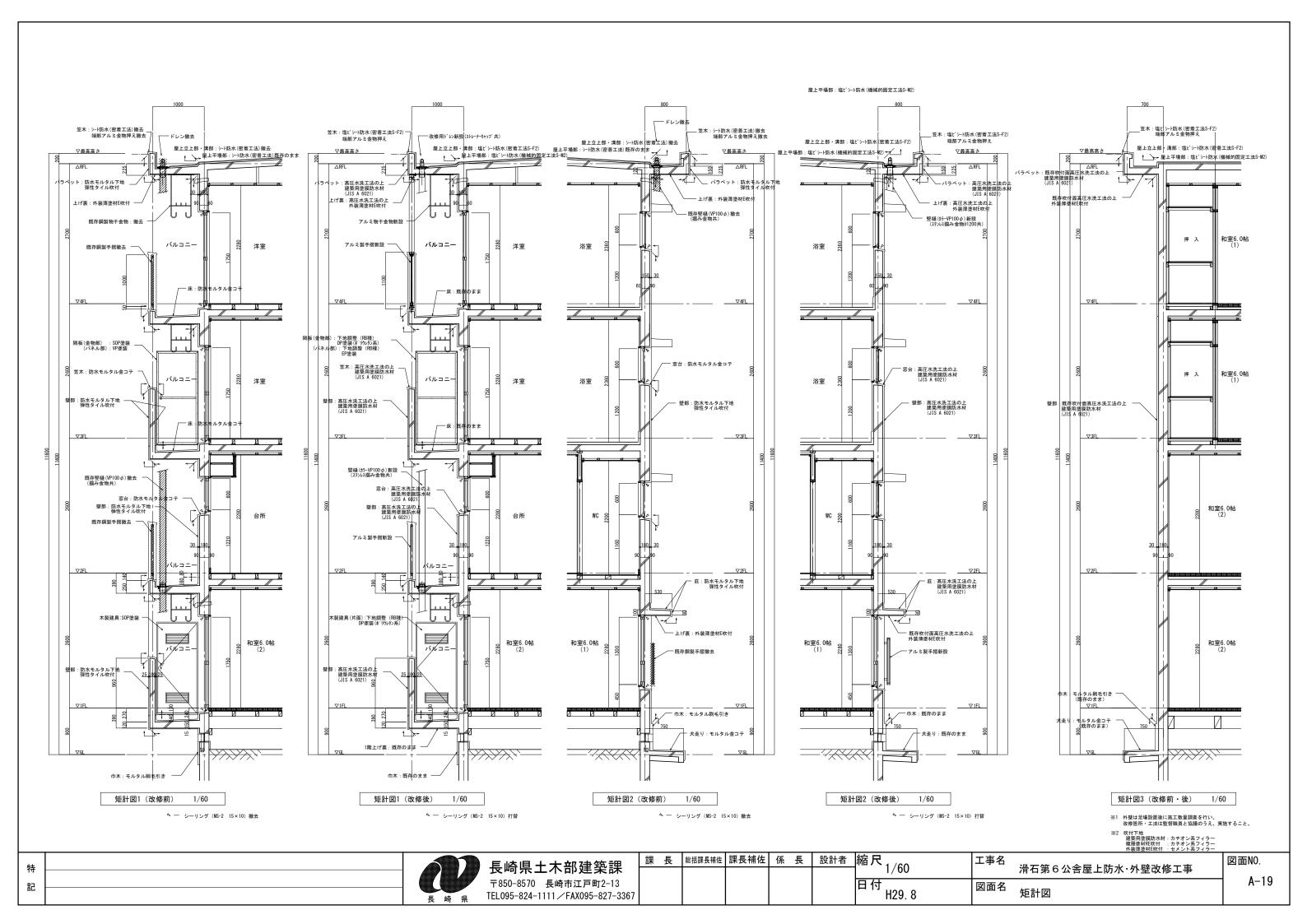
※1 外壁は足場設置後に施工数量調査を行い、 改修箇所・工法は監督職員と協議のうえ、実施すること。

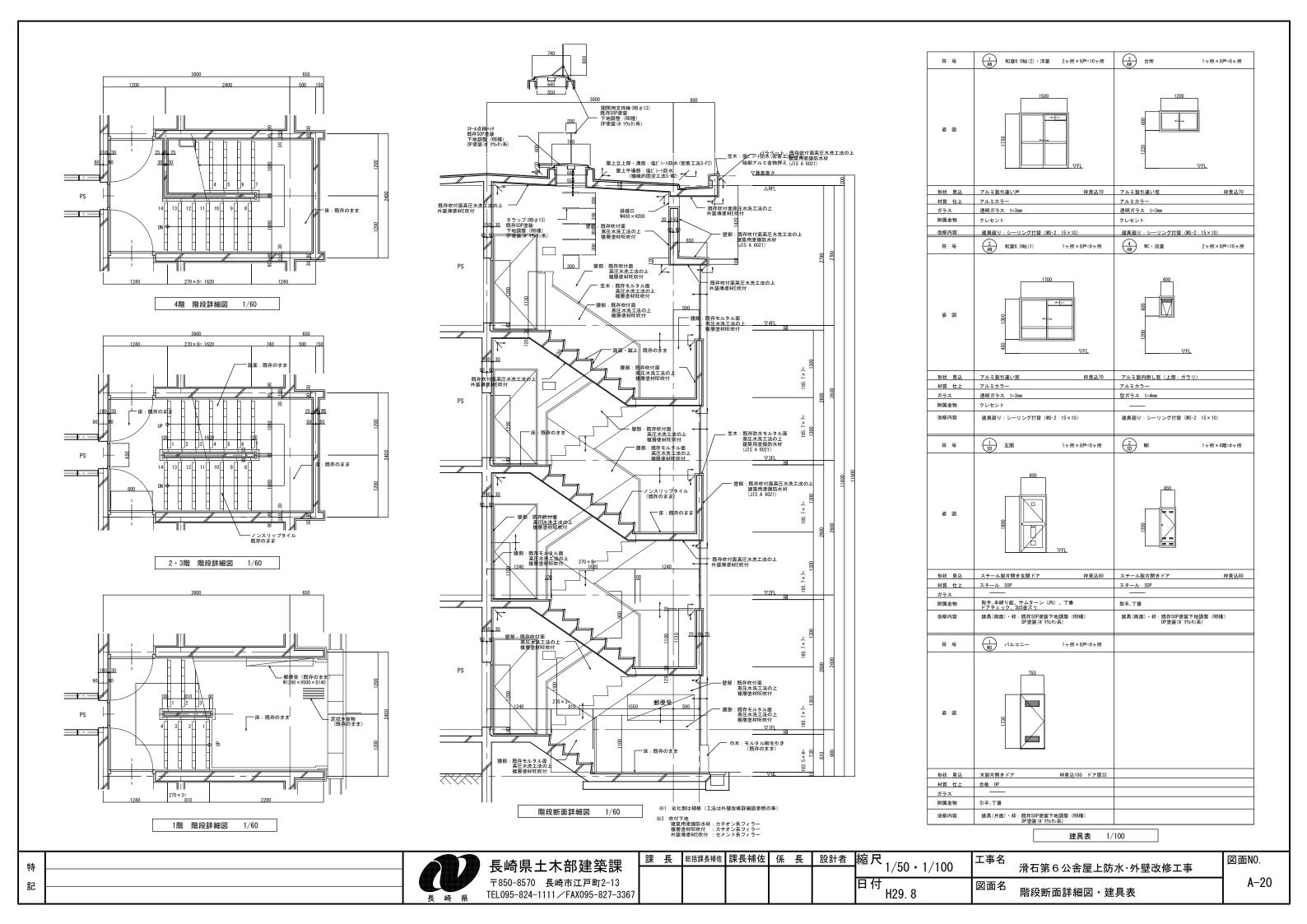
※2 吹付下地

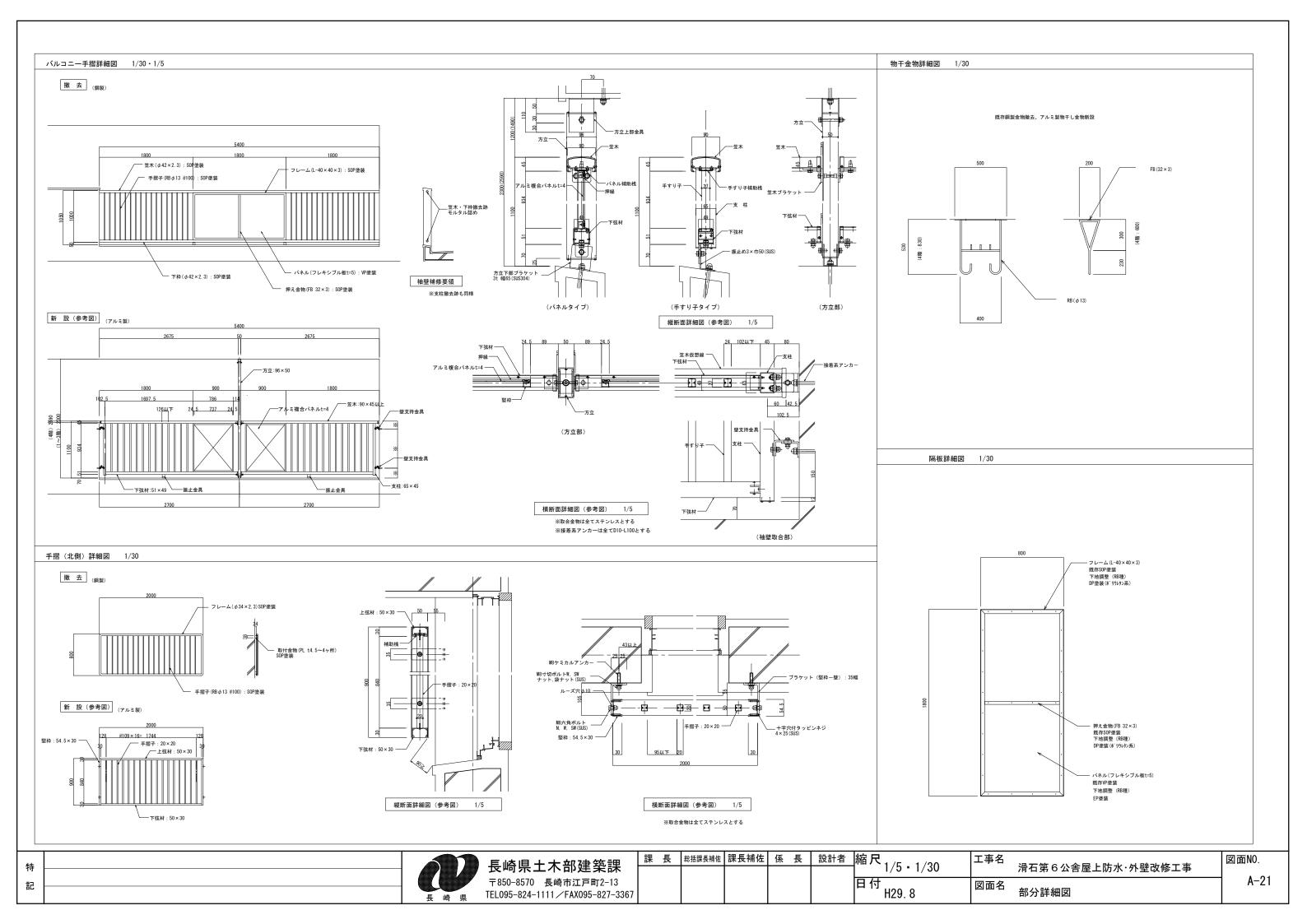
建築用塗膜防水材:カチオン系フィラー 外装薄塗材E吹付:セメント系フィラー

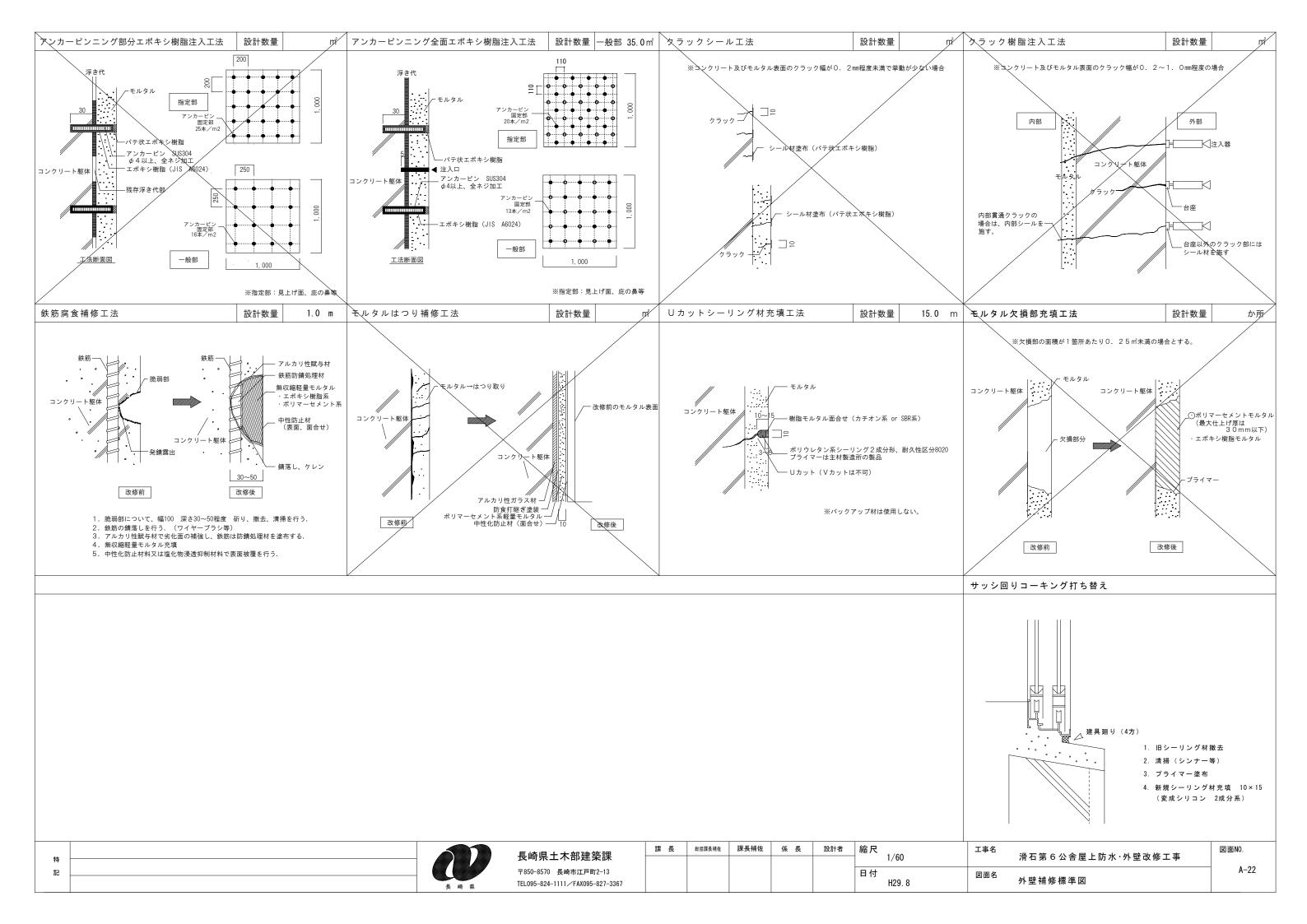
 特
 長崎県土木部建築課<br/>〒850-8570 長崎市江戸町2-13<br/>TEL095-824-1111/FAX095-827-3367
 課長機器機能課長補佐保護<br/>(基本)
 銀行<br/>(基本)
 1/100
 工事名<br/>滑石第6公舎屋上防水・外壁改修工事
 図面NO.<br/>角石第6公舎屋上防水・外壁改修工事

 日付<br/>H29.8
 図面名<br/>東側立面図・西側立面図
 東側立面図・西側立面図











 特記事項
 建物名称
 図面名称

 011\_滑石8AP
 位置図